JOCカップ・ジュニアオリンピックについて

小西博喜

今、日本スポーツ界の弱体化が叫ばれて久しい。また、浸透する商業主義世界経済のなかで、そのためのオリンピック改革をはじめとして揺れ動くスポーツ精神も早いテンポで進行している。

世界の頂点を目指すスポーツ界も従来のような、参加することに意義を求めるだけでは十分ではなく、テレビ局、スポンサー企業をいかにして満足させるかが重要なテーマとなっているからだ。

ハンドボールでもアジア(韓国)を制するは世界を制することが実証されつつある至難の時代に入った。欧米スポーツでは今やトップ選手の国外流出、トレードは極めて常識の範囲。少なくとも生涯スポーツ(賞金スポーツ)として人間の体力・技術のすべてを賞金に向けて挑戦する過酷なしのぎを削る生死のドラマを演じている。

たとえば、マラソンレースやゴルフ、テニス、サッカーなどプロ化を見てもスーパースターの誕生で次々と賞金レースが始まり、もはやオリンピックにプロ選手が出場することに誰もが驚かなくなった。むしろプロ選手は「世界最高の大会」に欠かせない存在にさえなってきた。

今回、「JOCカップ・ジュニアオリンピック大会」の制定について日本オリンピック委員会(JOC)から通達があった。主な事業概要としては、「オリンピックの有望選手認定制度」「オリンピック有望選手特別研修会」を実施する。

それは毎年4月1日から翌年3月31日までとされ、ジュニア競技大会の資質向上を図ると同時に優秀なジュニア選手の表彰制度を設け、将来オリンピック大会や世界選手権等において活躍するジュニア選手の表彰と認定を行うというジュニア対策の一環としての強化事業が打ち出された。

この通達以前に、普及委員会では(財)日本中体連ハンドボール部と全国中学生選抜大会の開催について協議を始めていた矢先のことであった。早速、普及委員会組織のメンバーである中学校専門委員会と全国中学校ハンドボール大会(8月18日・於福井市)時に協議した結果、将来に向けて各ブロックの広い底辺から素質のある人材を発掘し、強化育成に役立たせようという観点で、中学生界のレベルアップを意図する。そのため、できるかぎりJOCの主旨に添ったチームづくりで1・2年生を対象に最強チームを編成する申し合わせがまとまった。

さらに、そのことを受けて第1回普及委員会(9月5日・於日体協)を開き、将来を展望する立場で協議した結果、「第1回」という記念すべきイベントであり、時間的な制約を考えて、チーム編成は単独でも補強をしても、また選抜チームのいずれの強化方法でもよい。基本的には、各都道府県独自の発想を尊重したいという方向で承認された。

年度途中の日本協会事業であり、各都道府県協会、ブロック協会の了解、支援を受けなければならず、平成4年度事業として全国理事会に協議を依頼すべく現在検討を進めている。

以上が現在に至った経過である。ところで、「中体連ハンドボール強化育成対策」について、これまで日本協会としては具体的な取り組みについて着手していなかっただけに、この未完の宝庫に今後どのような施策を講じていくのがよいのか。何が中学生の強化対策に必要なのか、アジア地域ジュニアを考えても課題は多い。

今後、普及委員会の中学校専門委員会を中心に普及委員会、常務理事会がそれぞれの過程でコンセンサスを取りながら、21世紀を見据えたジュニアプロジェクトは少なくとも10年計画を見通した展開が必要である。来たるべき時が来た感じである。

また、JOCには規制の大会に名称を変えることは認められないという条件があり、日本協会としてはその主旨に添って計画準備を急いでいる。オリンピック大会でさえ大きく変わった。即ち、「オリンピックは最高水準のエンターテイメントの要素」が備わっていなければならないし、またそれは「最高水準」を求めていることを考えると、このJOCカップ・ハンドボール大会が、日本の将来を担う頂点強化の登竜門となり、今後「最高水準」の宝庫としてスポーツ少年団育成にも好刺激を与え、興奮と感動を呼ぶ大会に発展することをぜひ期待したい。

さて、未完の大器として主役を演ずる選手諸君、英知を結集して指導される脚本家の先生、必勝の祈りをこめ手に汗する保護者の応援団、主役の演ずる舞台づくりは主管協会、このオーケストラにはギャラがない。しかし、メジャースポーツのもつ人気と魅力の付加価値は計り知れない。JOCカップ・ジュニアオリンピック・ハンドボール大会で活躍する中学生にとって新たな富を選手にもたらすことができることを願って、この若人たちの船出に思いを託し、力いっぱいの声援を送りたい。

第44回全日本総合選手権大会展望

第44回全日本総合選手権大会は、待望の東京体育館にて12月10日から13日まで開催される。観戦される方々には、交通の便が第一、何と言っても千駄ヶ谷駅前ということが魅力。また、空調がコントロールされているので、選手をはじめ、取材陣、観戦される方々にとっても一層ハンドを楽しめることと思う。そのような会場で行われる、今回の全日本総合選手権について、その展望をまとめてみた。

男子

前回、男子は日新製鋼・大同特殊鋼の日本リーグ上位チームの決勝となり、接戦の末、日新製鋼が悲願の初優勝をとげたが、一昨年から、日新製鋼は、常に上位で安定したチームへ変貌した。(一昨年リーグ2位、昨年リーグ2位・総合選手権優勝、今年リーグ前期を湧永製薬と同率1位折返し)日新製鋼の強さは、厚い選手層による得点力のアップである。とくに33才西山の安定したプレーが要所に見られる。前回の総合選手権でも、西山が要所を締めて着実に得点を重ねてた。西山へマークを強めると、坂口・林・源内・堀田がロング・ミドル・速攻を連発してくる。



どのチームでも得点力は、主力選手に集中するが、日新製鋼は、全選手がどこからでも得点できるようになり相手チームは、一層ディフェンスに集中しなければならない。日新製鋼と対戦した場合、前半4、5点リードしても、後半逆転される可能性大である。そして、守りの要GK宇田川が好調でファインプレーを連発して、試合の流れを変えてしまうパターン。リーグ前期の総得点208ポイントは、もちろんトップである。

昨年は、エース玉村の故障や新旧交替で、総合選手権・日本リーグと低迷した湧永製薬であったが、やはり長年ハンドボール界の頂点を築いたチームは、回復が早い。今年のリーグ前期は、日新製鋼と同率1位で並ぶ。エース玉村の復調に大物ルーキー中山(福岡大)の加入で王者湧永が復活した。新井・長沢・鎌塚ら中堅選手の成長に、玉村の復調、中山の加入がより一層の相乗効果をもたらした。特に鎌塚は、先の日新製鋼戦でミドルシュートを連発し、チームを活気づかせたプレーに成長の一途がうかがえた。また、中山効果では、福岡大コンビ田中とのイキのあったコンビネーションプレーが期待でき、先輩田中の気迫のシュートも誘発される。ベテラン酒巻・河原・堀田は、好調持続。長い間湧永製薬のゴールを守った名手井藤が監督に退き、その後を多田が死守していたが、ルーキーGK河野(中京大)が加わって、ポスト井藤をめぐり、今年の湧永ゴール前は、熱いものを感じさせる。

日本リーグ二連覇にむけてスタートした大同特殊鋼だが、リーグ前期が終わってみたら3勝3敗1分と早くも二連覇に黄信号が点灯した。韓国人選手のバルセロナオリンピック出場という特殊事情はあったが、もう自力優勝は無くなってしまった。ゆえに今年は、どうしても総合選手権のタイトルが欲しいところ。優勝しなければならないと大同セブンの心中は、他チーム以上に燃えている。昨年は、後一歩というところで総合選手権のタイトルを日新製鋼に阻まれ、その雪辱は、リーグ後半で見事に晴して、日本リーグチャンピオンに輝いている。今回の総合選手権では、バルセロナオリンピック出場(韓国代表)でチームに迷惑をかけたと奮起する林　珍錫の戦列復帰に期待がかかる。昨年より頭角を現わした末岡は、各チームからのマークがきつく、やや手をやいている感じがするが、センターからのミドルシュート(ブラインドシュート)には、期待がもてる、高村は、キャリアと高さで、相変わらず大同特殊鋼を牽引している。

リーグ前期が不本意な結果だったので、持ち前の地力にものをいわせる攻撃で臨むであろう。

速攻、固いディフェンスには、自信の本田技研は、日本リーグ前期4連勝と好スタートを切ったが、第5戦で苦手日新製鋼に、後半逆転されるパターンで屈し、第6戦も接戦の末、湧永製薬に惜敗した。本田技研の失点は、リーグチーム中一番少ないが、それに比例して得点も少ないと言うことは、攻撃のパターンが単調、セット攻撃が少ないため、相手チームにとっては、ディフェンスが容易である。

やはり守護神・橋本の気迫のキーピイングに、絶対的な期待がよせられて、読みのいいディフェンスと橋本の好守から、山村、内藤、平松へつなぐスピード速攻が爆発すれば決勝まで手がとどく。また、先の『べにばな国体』では、湧永・日新の広島選抜と決勝で対戦し、延長の末惜敗したが、今後への期待をつないだ。総合選手権では、苦手な日新製鋼と予選で対戦しなければ、橋本の気迫のプレーを何度も見られるのが楽しみ。

執筆時（10月30日現在）対戦組合せが決まっていないが、3強日新製鋼、湧永製薬、大同特殊鋼に、本田技研、大崎電気工業が追従する形。大学チームは、世界学生選手権大会と重なり、主力選手が抜けて戦力低下で上位進出は期待できない。

女子

女子についても男子同様、前回のチャンピオン北国銀行が調子を上げており最有力視される。当初穂積監督は、GK木戸が引退し、ディフェンスにある程度の失点を、覚悟していたそうだが、リーグ前期を見る限りでは、この不安を接戦での粘りがカバーしている。前回の総合選手権を制覇した自信で、得点力が急上昇しているからであり、今年の北国銀行は、松田が毎試合要所で得点を重ねているのが目をひく。昨年腰の故障で苦しんだ松田だが、今年から全日本チームのキャプテンになり、試合中の状況判断や各相手チームに対する自分の役割を素早にプレーに出している。エース金　順徳、谷本、松下、そして松田の4枚看板が総合選手権の見せ場を演出しそうである。

今年のオムロンの、攻撃パターンは、男子本田技研とよくにている。ディフェンスから比嘉、中山、橋本たちへつなぐスピード速攻が多く見られる。主力3選手（武津、西村、グデリュー）が抜けて、ややディフェンス力が低下している点に不安が残る。総合選手権がデビュー戦となる張　泓（中国）が、中国で一緒にプレーした蒋　引娟（日立栃木）の活躍に刺激をうけてどの程度活躍できるか注目している。また、長身であり、低下したディフェンスの要として期待がかかる。

ジャスコとの入替え戦に惜敗し、日本リーグ2部に落ちた日立栃木だが、調子上昇中で注目する。5月の実業団選手権、先月の『べにばな国体』で善戦し、リーグ2部ではダントツで他を圧勝している。2人の中国人選手蒋　引娟、陳恵馨が加入して、市来中心から飯塚、新井、大砲の貴田、大型ポストの小柏と幅広い攻撃が展開できるようになった。蒋、陳が来日してから半年たち、日本の生活にもなれ、初の総合選手権で、大暴れするのを期待。2年目GK坂本の成長にも期待する。

先の『べにばな国体』では、日本リーグ勢を連覇し、優勝した殖産銀行クラブを有力としたいところだが、当初の目標であった国体をクリアしたのでここまでと思われる。他のチームが総合選手権に向けて調整して来るが殖産銀行クラブのその後については、解散するとの見方で、エントリーしてきても、総合選手権出場資格（日本協会推薦）の行使と言ったところだろう。

総合選手権と言ったら大崎電気工業男女。説明する間でもなく、リーグや他のゲームで、調子を落としても、トーナメントに勝ち上り、毎年決勝にでる底力がある。この強さを分析しても、総合に強いしかない。NHKで全国放送される決勝に毎年〝レギュラー出演〟できる、会社思いの選手たちが揃っているのではないか。

全日本総合選手権大会テレビ放映予定

第44回全日本総合選手権大会の決勝戦を12月13日の午後2時より3時30分までNHK教育テレビで放映される予定です。ぜひ、白熱した戦いをお楽しみ下さい。

NHKテレビスポーツ教室放映日の変更

前号でお知らせいたしました「NHKテレビスポーツ教室・ハンドボール基礎編」の放映日が、NHKの都合で1月9日（土）の16時30分から17時までの30分間に変更となりました。

「第17回日本リーグ後期」の展望

日本リーグ運営委員会

第17回日本リーグ後期がいよいよ1月15日（祝）山形・東根市において2部集中開催を皮切りに2月28日までの一ヶ月半にわたり、全国各地で熱戦が再開されます。

男子1部は、今回よりプレーオフ制を採用しており、最終成績上位3チームがトーナメントで最終順位を競います。プレーオフは、3月12日（金）～14日（日）東京都体育館で実施いたします。

後期の展望として、男子はリーグ開始前から予測されたとおりサバイバルレースの様相となっております。昨年7年ぶりの王者復活なった〝フェニックス〟大同特殊鋼を軸に進境著しい日新製鋼、湧永製薬、本田技研、大崎電気の5チームがからんでの優勝争いと予測されたわけですが、大同特殊鋼、韓国パワーの1人林（イム）選手がバルセロナ・オリンピック韓国代表に選ばれたため一時帰国を余儀なくされ、戦力ダウンで前期を戦わざるを得ず、実力拮抗の上位チームのなか当然のことではあるが苦戦を強いられ、前期終了時点で5位と低迷したことが混とんとしたサバイバルレースにますます拍車をかけた結果となりました。後期突入に向ってファンにとっては絶好の展開となり、最後の最後まで目を離せない熱戦が展開されるでしょう。

ベテラン、中堅、若手がガッチりかみ合った日新製鋼、相変らずの試合巧者ぶりを発揮している湧永製薬が6勝1敗同士で首位ターン、キャプテン山村のふんばりで5勝2敗、3位ターンの本田技研、新キャプテン宮下を軸にダイナミックプレーで4勝1分2敗4位ターンの大崎電気、5位ターンながら林（イム）の復帰で後期全勝を狙う大同特殊鋼の5チームでプレイオフ出場権をかけての壮絶、熾烈なサバイバルレースが予想されます。また、昨シーズンの得点王で今シーズンも前期終了時点で得点王となっている呉を擁し、着実に地力をつけている中村荷役運輸が何んとか5強の一角を切り崩し、意地を見せたい戦いぶりも注目されます。1部に定着した三陽商会は1勝6敗7位ターンと苦戦、入替戦出場だけは避けたいところ。2度目の1部チャレンジのトヨタ自動車は、悲願のリーグ1勝はお預けとなりましたが、自動降格(最下位）だけは絶対に回避したいはず。下位3チームのふんばりようによっては上位5チームの戦線にも大きく影響し、ますますリーグが面白しくなり、ファンにとっては望むところであり大いに期待したいものです。

一方女子についても男子同様優勝争いは混とんとしており、その行方を占うのは非常に難しい状況です。昨年の全日本総合を制した北国銀行が接戦をしのいで5戦全勝で首位ターン、安定した戦いぶりで4勝1敗、2位ターンのオムロンが頭一つ出た展開となっていますが、外国人選手、新人の補強などで戦力の強化に励んだ各チームが、優勝を目指して熾烈な争いを展開するものと思われ、前期以上の混戦が予測されます。

3年ぶりの1部復帰となったジャスコは、地力どおり3勝2敗3位ターンと大健闘。後期の戦況次第では1部復帰いきなり優勝の快挙も夢ではない。安定した試合展開で定評のあるシャトレーゼは2勝3敗4位ターンと苦しいが、このままで終るチームではなく、上位を喰って自身も何んとか上位に喰い込みたいところ。主力選手の引退などで選手交代期にある大崎電気、大和銀行の両チームは予想外の展開で大苦戦、入替戦出場回避に捲土重来を期待したい。

特に女子チームの場合、監督の采配ぶりも大きなウェイトを占めており、前期大活躍した若手選手の働きぶりと共に大きな見所であり、上位進出のカギとなるでしょう。

いずれにしても一戦一戦が非常に大事なゲームとなり、一戦たりとも目が離せない展開が予想されます。2月28日（日）広島でのオムロン×北国銀行の最終ゲームまで決着がもつれ込むのは必至。ファンにとっては最後の最後まで楽しめそうですが、チーム関係者にとっては一喜一憂の一ヶ月半となりそうです。

2部男子については、2部中堅に定着していたトヨタ車体が戦力補強に成功、7戦全勝として首位ターン、初のリーグ1部入りの夢をふくらませています。5勝1分1敗で2位ターンとなった日本電装も着実に実力をつけて、2部リーグ加盟4年目にして初の1部への挑戦権を手にしそう。1部からの降格となった三景は4勝1分2敗で3位と苦しいターンとなったが、試合巧者ぶりは定評のあるところ、入替戦常連の本田技研熊本と共に巻き返しを虎視眈々と狙っており、この上位4チームでの星のつぶし合いが見所。昨シーズン、リーグから転落した日鉄建機、新規加盟希望のアラコが2部入替戦出場を決めており、なんとか入替戦回避を計りたい新規加盟の北陸



電力をはじめ、竹芝精巧、大阪ガス、豊田自動織機の後期での頑張りを大いに期待したいものです。

２部女子については、１部同様混戦模様。

１部から降格した日立栃木が５戦全勝で首位ターンとなったが、進境著しいＪＵＫＩ、ソニー国分、前期は新戦力がうまくかみ合わず３勝２敗３位ターンとなったブラザー工業の４チームは紙一重であり、最後まで目が離せない展開が続きそうで興味津々です。練習相手に恵まれないムネカタ、新生日本ビクターは後期も苦戦を強いられそうだが、何んとか上位の一角を崩し自信をつけてもらいたいもの。

女子リーグについては、かねてよりチーム数の増加を望まれていますが、来年度についても新規加盟チームがなく来シーズン第18回大会も１部６チーム、２部６チームで実施いたします。女子リーグの活性化、レベルアップのためにも早期にチーム数の増加を図りたいと考えているところです。切磋琢磨することにより、再び世界の桧舞台で日本チームが活躍することを願っているのはリーグ運営関係者だけではないと思います。

いずれにいたしましても、栄光の優勝旗を目指して、男女共熾烈なサバイバルレースが全国各地で展開されます。全国の皆様方の絶大なる応援をお願いいたします。

尚、１部、２部の入替戦はプレーオフと同時に３月12日～14日東京都体育館で行います、合わせてご声援をお待ちしております。

リーグについてのお問い合せは、
（財）日本ハンドール協会内
日本リーグ事務局まで。
ＴＥＬ〇三－三四八一－二三六一

前期成績

【１部男子】
①湧永製薬（６勝１敗）
②日新製鋼（６勝１敗）
③本田技研（５勝２敗）
④大崎電気（４勝１分２敗）
⑤大同特殊鋼（３勝１分３敗）
⑥中村荷役運輸（２勝５敗）
⑦三陽商会（１勝６敗）
⑧トヨタ自動車（７敗）

【１部女子】
①北国銀行（５勝）
②オムロン（４勝１敗）
③ジャスコ（３勝２敗）
④シャトレーゼ（２勝３敗）
⑤大崎電気（１勝４敗）
⑥大和銀行（５敗）

【２部男子】
①トヨタ車体（７勝）
②日本電装（５勝１分１敗）
③三　景（４勝１分２敗）
④本田技研熊本（４勝３敗）
⑤大阪ガス（２勝１分４敗）
⑥北陸電力（２勝１分４敗）
⑦竹芝精巧（２勝５敗）
⑧豊田自動織機（７敗）

【２部女子】
①日立栃木（５勝）
②ＪＵＫＩ（４勝１敗）
③ブラザー工業（３勝２敗）
④ソニー国分（２勝３敗）
⑤ムネカタ（１勝４敗）
⑥日本ビクター（５敗）

◎得点ランキングベスト10

〈男子〉
①呉（中村）55点（７試合）
②三輪（トヨタ）53点（７試合）
③飯嶋（三陽）52点（７試合）
④末岡（大同）43点（７試合）
④盧（大同）43点（７試合）
④魚住（大崎）43点（７試合）
⑦山村（本田）42点（７試合）
⑧田中（三陽）38点（７試合）
⑨首藤（大崎）33点（７試合）

〈女子〉
①尹（大崎）45点（５試合）
②金（北国）44点（５試合）
③金（ジャスコ）37点（５試合）
③木口（大和）37点（５試合）
③比嘉（オムロン）37点（５試合）
⑥松田（北国）31点（５試合）
⑥谷本（北国）31点（５試合）
⑧中山（オムロン）29点（５試合）
⑨山岸（シャトレ）26点（５試合）
⑩小俣（シャトレ）24点（５試合）
⑩林（ジャスコ）24点（５試合）

◎フィールドゴールベスト５

〈男子〉
①呉（中村）53点（７試合）
②三輪（トヨタ）46点（７試合）
③飯嶋（三陽）43点（７試合）
③盧（大同）43点（７試合）
⑤魚住（大崎）38点（７試合）
⑤田中（三陽）38点（７試合）

〈女子〉
①金（ジャスコ）37点（５試合）
②木口（大和）34点（５試合）
③尹（大崎）32点（５試合）
④谷本（北国）31点（５試合）
⑤松田（北国）30点（５試合）
⑤金（北国）30点（５試合）

男子ナショナルチーム、自衛隊富士学校に体験入隊

自衛隊体験入隊報告

関　健三

男子ナショナルチームは、10月16日～19日まで陸上自衛隊富士学校にレンジャー訓練の体験と規律ある隊内生活を通じて、「日本代表選手としての気力、体力の涵養、錬成を図る」目的で体験入隊致しました。

初日、8時に学校へ入り戦闘服などを受け取り、日課等の説明の後、入隊式へ向った。入隊式では、普通科部（歩兵隊）部長の歓迎挨拶に続いて橋本主将より宣誓が行われ、蒲生監督からレンジャー班長山口二佐の管理下に移り訓練を受けました。

午前中は自衛隊の基本、整列、敬礼、行進自衛隊体操を学びました。そのころには、選手はすっかり隊員になりきっていました。

午後はコンパスの使用法で、教室で1時間使い方を学んだ後、携行食・非常食・笛などを持ち訓練場へと向いました。そこは、雑木林があり草が背の丈ほどもありました。始めに自分の歩幅の計測で林の中、100mの上り、100mの下りをそれぞれ何歩で行くかを知り、コンパスを使ってひとりで、①48度の方向へ278m、②250度の方向へ405mというような指示で5ヶ所のポイントを16時から21時までに回ってくるという行程で訓練が行われました。

トップは1時間37分という速さで戻り、5人までが2時間ほどで戻りましたが、他の選手は4時間近く野原をコンパスを使って暗闇の中歩き続けました。懐中電灯はコンパスを見るときだけ最少限使い、迷ったときは、訓練場を囲っている当正道に、北へ向って歩き出て巡回している助教を待ち、進んだポイントまで案内され再び歩き続けました。笛はケガなど非常事態のときだけに使うが、その心配もなく全員8時までに戻ることができました。

2日目、午前中はロープ訓練で①リベリング、13mの高さからロープを使って飛び降る。②ロープ橋渡り、7mと9mの高さに張った2本のロープを渡り、中ほどで手を放し命綱だけで中吊になり、回復して渡りきる。③岩登り、ロープを使った岩壁登りと、92度壁のフリークライミング。以上3種目を全員やり遂げました。午後は、体力向上運動で懸垂、腹筋、腕立て臥せ、綱登りなど、筋持久を使った運動を2時間して、戦場そのままに45kgの小銃の替わりに鉄棒を持って22個の障害を越え10kmを走るという訓練でした。記録は1時間から1時間30分で完走しました。

3日目、高地トレーニングで富士山の新5合目から5km登って、降りてくるコースで、登山駅伝そのままのコースを走りました。午後はレンジャー体力測定で手榴弾投げ、50kg土嚢の50m運び、懸垂、２０００ｍを４・５kg携行して走るなどの8種目ですばらしい結果でした。特に手榴弾投げでレンジャー標準記録30mを遥かに越える60m以上を投げました。しかし、体重が多い分、懸垂は苦労していました。

最終日は、5時に起床しハンドボールの練習。7時ごろ学校長の見学があり、久しぶりにボールに触れた選手はいきいきとプレーをしていました。最後は10マイル走。前日ドクターの健康診断を受け1名がドクターストップ、他に数名ドクターストップに近い選手が数名いましたがそのまま21名をスタートさせました。その10マイルとは、30分間以上体力向上運動をした後に、45kgのウエイトを持ち、半長靴と戦闘服で登って降りてくるコースを全員揃って完走することです。スタートして1時間すぎに数名がドクターストップにかかり棄権しましたが、その他の選手は、ふらふらになりながら完走しました。

卒業式では、教官より「日本代表として、この体験を生かし頑張って下さい」と言われ、体力の限界に挑戦し、自分なりに何かを掴んだ選手の目には、涙も見えました。4日間の体験をハンドボール人生に役立てほしいと思います。

今回の訓練は、レンジャー教官、助教、支援隊員などの協力、援助をいただき無事終えることが出来ました。自衛隊の皆様、協会関係の皆様のご支援に感謝致します。

充実感いっぱいの体験入隊

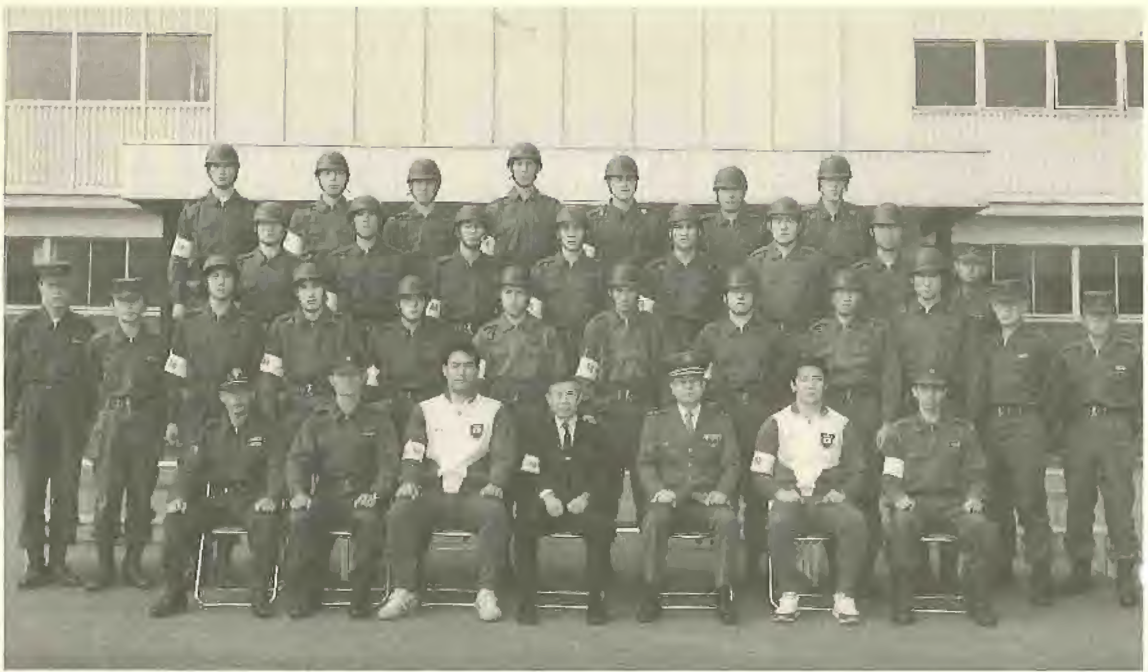
西山　逸成

新生男子ナショナルチームがアトランタ・オリンピックを目標に誕生（平成3年12月）以来早や10ヶ月の強化を経過した。

この間チーム結成直後の世界選手権B大会では、日本チームとしては初の予選リーグは突破したもの12ヶ国中の最下位に止まり、競技力水準の低さと今後4年間の強化が単に技術水準のみでなく世界水準のパワー、そしてかつての日本チームが持ち合わせていなかった〝ガッツ〟＝気力・根性・逞しさ＝の涵養が痛感された。

幸いにも極東選手権大会（9月・上海）で優勝した感激と次への意欲を胸に、かねてから蒲生監督の構想下で準備された自衛隊富士学校（校長・久保正佳陸将）でレンジャーの基本訓練による〝個〟と〝チーム〟の活性と貪欲な勝利追求の体質醸成を狙った体験入隊合宿を10月16日～19日の間実施した。

レンジャー訓練に期待しようとした理由は、男子ナショナルチームが現段階で求めようとしている点とレンジャー訓練によって求めようとしているいくつかの面に共通点が求め得られたからである。即ち、不眠不休・空腹・疲労という苦しい肉体的条件下で、24時間×4日間の全てが１００％の強要された条件下で最高の体力・気力



ならびに最良の自己判断能力を求めようとしている点である。

訓練内容としては、コンパス訓練（夜間5時間の森林内ポイント確認）、体力調整運動（鉄棒・胴回し・腕立て・起上り・屈み跳躍・綱登降）、体力測定（懸垂・土のう運搬・手榴弾投・起上り・腕立て・屈み跳躍・2000m、300m）、障害走路（1、000m×3周）、10マイル走（16kmを4.5kgの鉄棒携行でチーム走）が4日間にわたり実施されたが、測定や運動が「もう駄目だ」の自己限界記録に止まることなく教官の叱咤激励やチームメートの応援による努責作用が加わり、気力の記録が求められる訓練内容であった。

即ち、生理限界を越えたレンジャー基本運動に挑戦する姿の中に見栄やごまかしが介在し得ない雰囲気の中で、自分の弱さや怖さから逃れる術もなく、チームメートやスタッフの前で鬼に角やり逐げることを強要される訓練であった。

これらの体力測定や障害走路の記録の全部の集計結果で橋本選手（主将）がGKでありながら第1位、次いで渡辺、末岡選手であった。訓練期間中選手が得た成果を感想文から紹介すると「個の弱さを知るとともに、精神力が強くなった。自分では信じられない未知の力を探りあった」等充実感一杯であった。

隊内生活体験日程表

第1日（日課表）

時間	課目	細目
08:00 出発 09:00-10:00	受入等	被服交付
		身辺整理等
10:30-11:00	日課等説明	
10:30-11:00	入隊式	入隊式
		写真撮影
		対面式
11:00-12:00	自衛隊体操	
12:00-13:00	昼食・休憩	
13:00-21:00	コンパス使用法	
21:00-22:30	入浴	
22:30-22:45	清掃	
22:45	点呼	
23:00	消灯	

第2日（日課表）

時間	課目	細目
06:00-06:30	起床・点呼・体操	
06:30-07:30	朝食・休憩	
07:30-08:30	間稽古	
08:30-09:00	朝礼・容儀点検	
09:00-12:00	ロープ訓練	
12:00-13:00	昼食・休憩	
13:00-15:00	体力向上運動	
15:00-16:50	障害走(障害通過)	
16:50-17:00	終礼	
17:00-18:00	夕食・入浴・休憩	
21:30-21:40	清掃	
21:40	点呼	
22:00	消灯	

第3日（日課表）

時間	課目	細目
06:00-06:30	起床・点呼・体操	
06:30-07:00	朝食	
07:00-12:00	高地トレーニング	
13:00-17:00	体力測定	
17:00-17:10	終礼	
17:10-18:10	夕食・入浴・休憩	
18:10-19:00	健康診断(問診)	
19:00-21:30	休憩	
21:30-21:40	清掃	
21:40	点呼	
22:00	消灯	

第4日（日課表）

時間	課目	細目
05:00-05:30	起床・点呼・体操	
06:00-07:00	朝食・休憩	
07:00-08:30	間稽古	
08:30-09:00	朝礼・容儀点検	
09:00-12:00	体調3－3	
12:10-12:40	会食	
12:40-14:15	整備	身辺整理
		入浴
		被服返納等
14:30-14:55	卒業式	卒業式
		見送り
15:00	離校	

自衛隊体験入隊の感想文から

橋本　行弘

私は前回の全日本活動の一環として習志野空挺団へ体験入隊し、今回の富士学校が２回目の体験入隊となるわけですが、その都度、自分自身の未知の力を探し出すことが出来たり、一種宗教的な団結力が出来たりなど不思議な感覚を覚えました。

不断、国内のトレーニングで我々が感じる疲労、緊張感、行動が別のもののように思える場所（自衛隊）で毎日生活しているみなさんとは、生活文化の違いはありますが、この体験を別の形に変えて４年後のアトランタ・オリンピック出場を目指し、新しいまとまりで頑張っていきたいと思います。

田中　茂

自衛隊に体験入隊してみて、私が実際にハンドボールでは体験できないこと、また、自分に欠けている点、足りない所がわかりました。それと、私たちハンドボールというチームスポーツの中での仲間の大切さも今回の訓練であらためて認識しました。

私の気持ちの中で弱い部分も多く見えましたが、逆に自分の限界の向うに限界があるということに気がついた。本当につらかったです。それ故に終わった後の充実感は今までにないものがありました。

田中　雅彦

今回の体験入隊での感想をひとことで言ったら「２度とやりたくない」という言葉で表現出来ると思います。何もかもが初めてのことで苦しいことばかりでしたが、その分、誰もが経験できることでもないし、逆に経験させるのがもったいないぐらいの貴重なものだったと思います。特に、生きのびることの難しさ、自分自身に克つことの難しさ、また、自分一人ではなく友情の大切さ等を本当に身をもって味わうことができました。

佐藤壮一郎

自衛隊に体験入隊をすると聞いて、最初はあまり気乗りはしませんでしたが、いざ入隊して訓練を受けてみて１８０度気持ちが変わりました。私は、高校、大学と上下関係に苦労し、チャレンジャー精神で何ごとにもがむしゃらにやってきていたのに、全日本に選ばれてから自分に対して甘えが出てきていたような気がします。それが入隊して他の人が頑張っている姿や助教のきびしい言葉、苦しい教育を体験して過去の気持ちを思い出したとともにやり終えたという充実感で、また一から下級生の時の気持ちを思い出して新たな目標に向って突き進みます。

工藤　竜

今回の陸上自衛隊富士学校への体験入隊では、本当に苦しく、大変な思い出しかありません。今考えると、ある障害走が一番頭の中に残っています。あのきついトレーニングを完走出来たことで〝気力〟〝精神力〟が強くなったような気がします。今後、この体験をもとにして、私生活をはじめ自分のチーム、そして一番大切な全日本で十分に活かしていくつもりです。

高木　浩司

体験入隊を終えて数日が過ぎていきます。足の豆も直り、腕の筋肉痛もとれ、体の方はあの思いを忘れていきますが、やはりあの体験は、今まで25年生きてきて、人よりきびしい練習をしてきたつもりでしたが、想像を絶するものでした。つらい思い出でしたが、「今この手を離せば死ぬ」という思いでトレーニングをすれば、ほんとうに心で〝もうムリだ〟と思っても〝死んでしまうから登らなくては〟という気持ちになれました。自分が本当にここまでできるとは思ってもなかったです。本当に自分の力でやる気持ちが強くなりましたし、仲間とのチームワークとも強くなりました。二度と行くことはないかもしれませんが、今度富士山の近くを通った時は敬礼を忘れずに行います。



入隊式で宣誓をする橋本主将

魚住　和彦

全日本チームのメンバーが自衛隊に体験入隊するのは今回で２回目ということでした。前回はけがの為に参加出来ませんでしたので今回の入隊は半分楽しみにしていました。しかし、その気持ちも前夜の監督の話しで吹っ飛んでしまい、ほとんどが不安感になってしまいました。そして自衛隊の門をくぐると、そこは一言で言って別世界でした。そして、再び門をくぐるまでの４日間、本当に言葉では言い表わすことができない体験をしました。〝逃げたい〟〝やめたい〟そう思っても誰も助けてくれません。結局、自分でやらなければ終りはきません。（助けてはくれないと書きましたが、他の選手の声、隊員の声にどれだけ勇気づけられたことか）。

最後の日に流れた涙は一生忘れません。10マイル走で半分失神状態の時、かすかに見えた山口レン

ジャー班長の顔が、今も目を閉じるとはっきり思い出されます。

河野　裕光

最初、自衛隊入隊ということでいろいろ想像していましたが、いざ入隊してみると想像通りといおうか、想像以上にすべてにおいて厳しいものでした。初日のコンパス実習は、ポールがなかなかなくて、4時間ずっと歩き続け、足が棒のようになりました。2日目のレンジャー訓練は、恐かったけれども楽しかったです。3日目、4日目と障害走、体力向上運動、10マイル（16km）走と続き、体力的にも限界でしたが、やさしい（？）教官殿の励ましの言葉（？）を受けてなんとか訓練を終えることが出来ました。終ってみて、自分でも信じられないくらい頑張ってやれたと思い、また、自分の力のなさも思いしらされました。この体験入隊で、普段の生活では体験できないことや精神面、行動面も勉強できました。この経験をこれからの人生の糧としていきたいと思います。


訓練を見守る蒲生監督（左）

末岡　政広

自衛隊に体験入隊して訓練を一つ一つクリアーしていくにつれて全日本ハンドボールチームが一つにまとまったように思います。

最後の10マイル走を完走した時の喜びは一生忘れないと思います。

杉山　裕一

山口レンジャー班長が全員の前で話された時はビビってしまいました。正直言って〝えらいところに来たなぁ〟という気持ちでした。4日間でしたがいろいろな体験をしました。あそこまで自分を追い込んだのは初めてでした。まさか最後までやり抜けるなんて、自分自身でも不思議なくらいでした。

〝あれだけ出来たのだから〟と、どんなことにでもチャレンジ出来る気がします。4日間で精神面が伸びたとは思いませんが、以前よりはチャレンジしようという気持ちが出てきました。これからも忘れずにトレーニングに励んでいきたいと思います。

源内　利之

今回初めて自衛隊に体験入隊して、今までとは違う苦しい体験をしていくにつれ、今まで以上にチームが一つにまとまり、まさにチーム一丸になったと思います。

高田　浩志

今回の体験入隊では、生まれて22年間、これほど苦しい体験、感動をしたのは初めてで、矛盾があるかもしれませんが、ものすごくいい体験、経験をすることが出来たと思います。右膝の調子があまり良くなく、全日程をやり遂げることが（10マイル）出来なかったことが心残りで、残念です。しかし、体験入隊した4日間を自分の誇りとし、これからの人生、全日本活動に於いて活用し、頑張っていきたいと思います。

梅基　幸一

自分の未知の世界である自衛隊に入隊させてもらって、やっている途中は今までの体験の中で一番つらいのではと思いました。ただ持久的なことに関しては少し自信があり、まだやれると感じました。終ってしまえば笑い話に出来るわけですが。ただ自分たちの感覚と違ったのは〝5分前行動〟という考えがあるわけですが、その行動が否定されたことに関しては、ショックを受けました。4日間、言葉に表わせないほどのつらさがありましたが、最後に達成感というか、一番嬉しく思ったことは、終ってから教官の間での話を聞いた時に〝さすが全日本やな〟という言葉を聞いた時は、心に〝ぐっ〟とくるものがありました。

渡辺　浩

今回、体験を終えて、訓練も大変で自分を試すためには良い機会だったと思います。しかし、一番関心したというか時間の使い方です。私たちは仕事してトレーニングして毎日、余裕のないほど時間に追われています。しかし、訓練をあれだけ行なったにもかかわらず、終ってみたら午後6時でした。ものはやり方によってはだいぶ変ってくることを強く感じました。卒業の時にはすごく感動しました。

土屋　幸司

体験入隊という話を初めて聞い

て、以前全日本の人たちから〝とてもすさまじい〟と聞いていたので緊張のしっぱなしでした。入隊してみて、たぶん生まれてから一番恐い思いをして、一番つらい思いをしたと思います。自衛隊での上下関係、一日終るごとの何か自分でやったという開放感がすごく充実していたように思います。

三泊四日の入隊でしたが、卒業の時に自分でも思がけずに涙がこぼれてきてしまい、本当に男たちの仲間意識があるものだと思いました。

中山　剛

今回の体験入隊で、自衛隊に入隊したのは2度目ですが、前の時よりも苦しかったです。しかし、自分は足のケガの方の具合いが悪く、富士山のランニングや障害走、そして10マイル走も出来なくて、それが心残りです。チームのみんなが一生懸命努力しているのに、自分だけがおいていかれるようで寂しく思えました。ですが、この体験を生かしオリンピックに出場するためにこれからも努力していくつもりです。



4.5kgの鉄棒を持っての障害走

小野　優

初めての自衛隊体験入隊をして思ったことは、苦しくなるとすぐあきらめてしまうということがすごく恥ずかしく思えました。大学1年生の時も歯をくいしばる毎日でした。その大学時代の〝歯のくいしばり〟も忘れかけていて、久しぶりに思い出しました。4日間だけではなく、3ヶ月間フルに行なって、10マイル走で姿勢が崩れなくなるまで挑戦してみたいです。

宇多村　誠

19日に体験入隊を終えましたが、今思えばよくあんなことが出来たなと思います。助教、教官のもと、体力向上運動、その他やりましたが、自分は、はっきり言ってきついのは耐えきる男だったと思います。何度も手を抜こうと思いましたが、自分に打ち克つという気持ちがあり、障害走では一番最後でしたが、助教、教官が自分のことを励ましてくれたのが一番印象に残っています。特に、不寝番をする前、話を聞いた時、もしかしたら熊が出ることがあるかもしれない。あれだけ敷地が広ければいるかもしれません。最後に、一日何時間ぐらいの練習をするのですか。

林　康一

今までの自衛隊のイメージは、ただ厳しくて、暗くて、何も楽しさがないと思っていましたので、入隊までは本当にイヤで、何とか消化しようとだけ思っていました。しかし、初日のコンパス訓練から始まり、ロープを利用しての訓練、障害走、体力向上運動、富士山ランニング、そして最終日の10マイル走と日々自分を精神的に追い込んでいくにつれて、それぞれをクリアーした時の満足感と普通の人には味わうことの出来ない体験を出来ました。本当に感謝するとともに自衛隊のイメージが変わりました。ここで体験して身についたことを今後は自分たちの〝夢〟であるオリンピック出場と結びつけられることを真剣にご指導くださった教官へプレゼントしたいと思いますので、いつも新聞等で気にとめていて下さい。

藤井　孝志

今回、初めて自衛隊富士学校に入隊を4日間体験して、厳しいということは情報として聞いていましたが、実際にかなり個人として、またチームとして自分たちのためになったと思います。最終日に行なった鉄の棒を持っての10マイルランニングは、個人だけではどうしようもできず、チームワークがかなり必要であると思いました。いろいろな厳しい体験をしましたが、厳しいこと、つらいことの後にはうれしいこと、楽しいことがあります。体験入隊で自分もやればできることが少しではあるがわかりました。本当に貴重な体験をしたと思っています。

鎌塚　和彦

体験入隊の話を聞いた時、はじめはテレビで見てあまりきつくなさそうだったので、はっきり言ってなめていました。しかし、自分で体験してみて思うことは、物事に我慢強くなったということです。10マイルを走り切って感じたことは〝苦あれば楽あり〟とうことで、言葉ではわかっていましたが、10マイルという道のりを足場の悪さを乗り越え、坂道を走り続けゴールした時、少しは言葉の意味を自分の身体でわかったような感じです。この言葉ではなく、身体で感じた体験入隊を、これからいく度となくブチ当たる壁を乗り越える足場にしたいと思います。

丹羽　昭文

体験入隊の話を聞いて、恐かった半面、楽なものだと想像していましたが、4日間入隊してみて自分が甘かったと思い知らされました。1日目のコンパスは、夜になってチェックポイントを探していましたので、闇夜の恐さを知りました。また、自分は腕力があまりないので、腕立てや懸垂、ロープ登りなど、どれほどつらかったことか。こんなにつらかったのは、大学1年生の時以来だと思います。つらかったことばかり書いていますが、やはりつらいことや苦しいことの方が思い出に残るというか、いつまでも4日間のことは忘れないでしょう。


スポーツ安全保険
安心のリボンつけてますか？
ribbon

アジアジュニア選手権大会報告

監督・高橋精一

8月18日、品川プリンスホテルへ選手12名、団長・山下泉、監督、コーチ・奥田信治、計15名は午後7時集合。翌朝、北京へ出発した。松井幸嗣コーチ、市原(早大)、広政(筑波)、山口(法政)の4名は、東日本インカレ出場の為、一日遅れで合流した。

一行は、到着後、全員元気よく汗を流し、調整した。

同夜、プログラムが配布され、Aゾーンが韓国、日本、カタール、Bゾーンが中国、クウェート、中華台北。A・B計6ヶ国で予選リーグを行う。Aの1位とBの2位。Aの2位とBの1位で、トーナメント戦を行い、敗者戦(3、4位決定)、予選リーグ3位チームで、5、6位決定戦を行う。またルールは、25%ルール適用。

日本はAゾーンで緒戦は、21日、16時20分、韓国と決定。

選手たちの韓国に対する意気込みはすばらしく、気迫のこもった内容でアップを終え、緒戦に挑んだ。GK田原、CP森山、高畠、広政、笹浪、市原、藤井の7名が攻撃。防御では、広政と杉山、森山と田島が交替。

内容は、韓国独特の足を動かした機敏性あふれるハンドボールを封じ込め、単調に打ってくるシュートを速攻に結びつけ、得点を重ねていった。また、遅攻においても、センター森山を中心にコート狭しと動き回り、サイド市原、ポスト笹浪のシュートで着実に加点していった。前半25分過ぎに、最高のリズムを狂わす出来事が起こった。それは、不正交替で、ディフェンスの軸である杉山が2分間の退場。ベンチ3人のスタッフも何の笛かが一瞬掌握できず、選手に聞くと、あわてて退場していないのに先に入ってしまった、とのこと。この時点まで3点リード、リズムが崩れなければと心配していたのが、2分間で1失点と最少失点におさえるも、ノータイム寸前、攻め急ぎ、逆速攻で1点取られ、結局16対15、1点リードで折り返した。

ハーフタイムで山下団長に激励の言葉を戴き、松井、奥田両コーチからの指示を受け後半に入った。

韓国は、作戦を変更したのか、身長2メートル、左利きの選手にボールを集め、フリースローからのシュートを多用して、10分過ぎ同点、更に、逆転を許した。得点源での両サイドの出足が遅くなり、何とかリズムを元にもどそうとメンバー交替するが、気持だけが焦り、ミスが続き、4点差まで開いた。しかし、森山が最長身者の上からミドルシュートを打ちゴールイン。リズムを取りもどし、押せ押せムードで1点差まで追い上げ、残り1分、ワンチャンスを試みたが、得点にならず、逆に1点加点され、結局9対12、計25対27と惜敗した。

選手たちは、能力を出しきり、我々が心配している韓国コンプレックスなど一切なく、よく頑張ってくれたと思う。選手交替ミスと前半攻め急ぎの2失点が悔まれる。

気落ちしている選手たちをなだめ、心機一転、頑張ることを誓い、第2戦のカタール戦に挑んだ。

23日、19時試合開始。

カタールは、前回の韓国と違う攻撃方法で、一回の攻撃がすべてパッシブぎりぎりのスロー攻撃。守りの足が止まったとみるや、瞬間的に攻め込んでくる非常にやりずらいチームで、速いハンドボールを目標にしている関係で、リズムがとりずらそうだった。

前半9対9。後半は、ようやく日本の速攻が連続に決まり、13対9。計22対18で辛勝。カタールのボールに対する執着心が勉強にもなった一戦であった。

また、カタールに勝ったことによって、Bゾーン1位のクウェートとの対戦が決定。

25日、20時20分試合開始。

選手たちは、この一戦に勝てばもう一度韓国と対戦ができ、それに勝利すれば世界選手権出場権獲得、という大事な試合であることを認識して試合に挑んだ。

開始前の整列。審判員を見ると、カタールの帯同審判である。不吉な思いが走る。

開始早々、日本チームの警告ラッシュ、片方では、プロレスまがいの反則も、やりたいほうだい、何の処置もされず。あまりの判定に、奥田コーチが立ち上がり暴言連発、即警告。また、松井コーチもそれに対して態度に表わすと失格となり、日本のハンドボールを笛という武器で妨害されるケースが多く、後味の悪い試合となった。観客も目に余ったのか、アリーナに物が投げ入れられ、一時試合中断の一幕もあった。結局、前半、8対12とリードされ、ハーフタイ

ムで判定に対して動揺しないで、自分たちのプレーをし、悔いを残さないよう精一杯頑張れ、と檄を飛ばした。
　後半は、追い上げのムードが少しずつ日本側に出て来ると、観客席からの大声援も受け盛り上がりを見せたが、1点を争う攻・防が続く中で、ノーマーク・シュートの場面も多かったが、GKに止められ、それが逆にプレッシャーとなり、シューターが連鎖反応を起こし、逆転可能な場面で消極的になり、後半11対11、計19対23で惜敗。悔いの残る一戦であった。この時点で、アジア選手権大会優勝、世界選手権出場の権利がなくなった。
　27日、3・4位決定戦は中華台北で、お互い気落ちした中で、内容は何もなく、結局、スピードに勝る日本が24対21で、今大会3位に甘じた。
　今回の遠征で、体調を崩したり、負傷者を試合に支障なく回復させていただいた、河野ドクター、永松トレーナーお世話になりましてありがとうございました。
　総合的に評価すると、ジュニア選手たちは、アジアのトップレベルに、技術、体力共到達しており、今後ナショナルチームの中で訓練していけば、以前のように、アジアハンドボールの雄として君臨できる日が近いことを確信した。
　以上で報告終ります。

いろいろ体験させていただき、ジュニア育成にご支援を戴きながら、それにお答えするだけの成果を出しきれなかったことをここでお詫び致します。
　また、一日も早くアジアの雄に返り咲く日を夢追いつつ、若手育成に努力していく所存です。

コーチ・松井幸嗣

　8月19日から28日までの10日間、中国北京市に於いて、ジュニアアジア選手権大会が開催された。この大会は、1993年に行なわれる世界ジュニア選手権大会の予選会であり、また現在のジュニアクラスの選手（特に日本）が、アジアでどのレベルにあるのかを知るうえでも大切な大会である。
　大会は6ヶ国（日本、中国、韓国、中華台北、クウェート、カタール）の参加があり、当初の予定（12ヶ国）を大幅に下まわった。試合は予選リーグ、決勝トーナメントで進められた。
　日本は予選リーグで韓国、カタールと戦い、決勝トーナメントではクウェート、3位決定戦は中華台北と行ない、合計で4試合を消化した。結果については、第3位で世界ジュニア選手権大会の切符は手に入れられなかったが、大会を通じての問題点・反省点を多く得ることが出来た。これらを踏まえて今後のジュニア選手の強化を行なう上での課題について触れたいと思う。
　まず第一に体力面の強化である。一試合を通じて常に動き回われるだけの体力が必要である。
　第二に下半身の強化。日本の選手は腰の位置が一定ではなく、常にピョンピョン跳ねている状態であり、特にディフェンスのフットワークの悪さが目立った。
　そして第三に一対一のオフェンスの強化である。
　以上、三つの大きな課題をあげたが、まだ細い所でたくさんあると思う。これらの課題をクリアーすることによって、次回のジュニア選手権での優勝、そしてジュニア選手のレベルアップにつなげたいと思う。

コーチ・奥田新治

　8月19日より8月28日までの10ヶ日間、中国は北京市にて、ジュニアアジア選手権が開催され、コーチとして参加いたしましたので結果並びに私自身の反省として紹介します。対韓国、対クウェート戦は、結果として敗れはしましたが、十分に勝てたゲームであったと思います。
　選手たちは、ゲーム中は、十分に力を発揮してたと思いますが、最後の詰めの部分でのコンビプレーが取れていない。ジュニアとして、国内で合宿する期間が、全日本と合同の1回だけだったし、大会直前まで国内のスケジュールが詰っていたこと、やはり、ジュニアであれ、日本代表として、また、日の丸の付いたユニフォームを着て、ゲームを行なう時、最大限の努力をして大会に参加しなければいけないと思うし、そのような状態をつくってやることが、私たちの今後の課題であり、義務でもあると思います。
　最終結果は、第3位と残念な結果でありましたが、選手たちは、この経験を生かし、今後のプレーに役立ててくれればと思います。
　全日本が今、アジアでナンバーワンになることを目標にして活動しています。アジアでナンバーワンになる為にも、ジュニアレベルでの強化が大切であり、必要だと感じて帰国いたしました。最後になりましたが、今回は、団長として選手団の御世話をしていただいた、広島県ハンドボール協会会長・山下泉団長に心より御礼申し上げ終りとします。



日韓ジュニア交流競技会に参加して

全国高体連ハンドボール部長
須藤健児

〔目的〕

韓国との青少年スポーツ交流を促進し、これを通じ相互理解を深め、競技力向上に資する為に日本ジュニア競技者を隔年ごとに韓国に派遣する。

〔期日〕

平成4年8月23日(日)～8月30日(日)8日間。

〔場所〕

大韓民国全羅道光州直轄市。

直轄市とは、日本で言う政令都市の如きもの。

〔参加チーム〕

春の選抜大会で優勝した男子・埼玉浦和学院と女子・大阪四天王寺高、各々監督、主務1名と選手12名で計29名。

私は一昨年度、韓国江原道春川市に男子・神奈川横浜商工(渡辺監督)、女子・大阪宣真高(橋本監督)に続いて2回目の訪韓、交流試合を経験する。20回目を迎えた伝統ある交流試合を日程に従って概略を報告する。

▼8月23日(日)

東京品川、高輪プリンスホテルに前泊集合。四天王寺高のみ14名宿泊。

▼8月24日(月)

朝7時30分、選手団、成田へ向けて出発。須藤部長合流す。渋滞もなく、バス予定通り成田空港着。浦和学院チーム14名と合流。総勢29名全員揃って通関、出国手続き済ませ、11時35分出発。13時45分ソウル金浦空港着。バス4台にて光州市へ向う。約330kmの距離、約5時間かけて宿舎着。

▼8月25日(火)

午前。日韓両協会、監督・主将会議。時間、服装、ボール、ルール等に関して確認、打ち合せを行なう。

午後。試合場となる光州体育館にて初練習。9000名収容の大体育館。コートやボールに慣れるだけでも良かったと思う。

夕刻。18時より宿舎の無等山観光ホテル大広間にて、開会式及び親善パーティを開催。市内高校生の催し物や両国選手の盛り沢山のプログラムにより予定を30分もこえる盛会ぶりであった。

▼8月26日(水)

午前。男女共軽く練習。

午後。韓国ナンバーワンチームと対戦。

〈女子〉

四天王寺	15	5－14 10－10	24	仁川市 善花女高

〈男子〉

浦和学院	15	6－5 9－14	29	仁川市 精石航空高

試合内容、試合ぶり、戦法、戦略に関しては女子・繁田監督、男子・岩本監督の範囲なので論評は避けたいが、基本的能力、総合的体力等々スピード、パワー、スキル等、すべて韓国が一枚も二枚も上であった。

京畿道仁川地区はハンドボールの強化地域ではないだろうか。一昨年度も、女子は仁川・善花女子商業であったし、昨年度、この大会は愛知県豊田市で開催したが、その時、女子は仁川市仁川女子高校であった。

夕方。光州市長主催の晩餐会。両国の本部役員、競技役員等、約百名が招待され、私も若干の韓国語で交流を深めた。

▼8月27日(木)

終日観光。韓国三大名刹である松広寺と光州国立博物館を見学。さすがに白磁、青磁の焼物には目を奪われた。

▼8月28日(金)

午前。男女共練習。

午後。地元のナンバーワンチームと対戦。

〈女子〉

四天王寺	22	13－12 9－13	25	朝鮮大附 属女子高

〈男子〉

浦和学院	18	10－14 8－10	24	朝鮮大 附属高

惜敗ではあったが、地元チームとは対等に戦えたと思う。決して勝てない相手ではない。その日の状況で勝ったり負けたりのチームと思いますが、男女の監督さんどうでしょうか。

▼8月29日(土)

光州からソウル市へ移動日。ソウル・オリンピック公園、ロッテワールド等見学とショッピング。漢江の流れを見て就寝。

▼8月30日(日)

航空便の都合で女子先発。男子後発で各々の故郷へ。けが事故なし。

第47回国民体育大会"べにばな国体"報告

思いっきり躍動——21世紀の主役たち

をスローガンに華やかに開催、熱戦相つぐ

大会総評

清水　正

　第47回国民体育大会秋季大会ハンドボール競技会は「べにばな国体」をテーマとして、思いっきり躍動21世紀の主役たちをスローガンに10月5日より9日までの5日間、山形県東根市（成年男子1部・成年男子2部・成年女子）、尾花沢市（少年男子・少年女子）の2市6会場において全国の厳しい予選を勝ち抜いた精鋭80チーム1040名の参加のもとに華々しく開催された。

　両市ともに村山盆地の東北に位置し、美しい自然に育まれた人情味溢れる田園都市で、本大会のために新設された会場は緑の自然とマッチした素晴らしい環境であった。

　5日に両市で開催された開始式は、一人一人役市民総参加の合言葉のもとに、渡辺副会長が会長代行として大観衆が期待のまなざしで見守るなかで行なわれ、それぞれの市がその特色を生かして尾花沢市が発祥の地である花笠音頭を主体として、花笠太鼓・大欅太鼓と幼稚園児より婦人会までの各層にわたったダイナミックの公開演技で始まり、役員も選手も一体となり素晴らしい企画のもとでよく練習されており、ブラスバンドの演奏も合唱隊の歌声もよく調和されており見事なできばえであった。

　ただ残念であったことは、ほとんどの選手団の入場行進に躍動感が少しも感じられなかったことであり、バルセロナ・オリンピック大会の予選で敗れ屈辱を味わった日本のハンドボール界が、新体制の下で次期アトランタ・オリンピック大会の出場を目指し再起を期している時だけに次代を担う選手諸君の一層の奮起を期待したいものである。

　ゲームは連日地元の小・中・高校生を中心とした観衆の熱烈な声援に燃えた選手の素晴らしいファイトに白熱したゲームが展開され、これがまた観衆を奮い立たせ、観衆も選手も一体となって緊迫した好ゲームが続けられ、それに加えて、地元チームの健闘もあり、競技会を盛り上げた。

　大会4日目常陸宮殿下・同妃殿下の御台臨を仰ぎ、斎藤会長、渡辺副会長も同席され、競技会は一層盛り上がった。

　総合開会式・閉会式共に雨に見舞われ、運営する役員も参加する選手団も観衆も大変であったと思うが、ハンドボール競技会は、天候に恵まれ、グランドでの試合も順調に消化することができ、すべて予定通り行なわれた。

　各種別の概況は、

（成年男子1部）

　今回の出場は各ブロック1チーム参加の激戦であったため、それぞれのブロックで振るわれて、日本リーグ勢は1部3チームのみの参加でいずれも順調に上位に入賞した。

　決勝戦は、広島県（広島県選抜）と三重県（本田技研）となり、日新製鋼と湧永製薬の選抜チームと本田技研の対戦は現在の日本の最高レベルの試合であり、一進一退のみごたえのある好試合となり会場を沸かせたが、延長戦の末広島県に凱歌があがり、広島県の二連覇となった。

　山形県（東根クラブ）が地元の声援を受けて埼玉県（大崎電気）を破り、3位に入賞したことは立派であった。

（成年男子2部）

　参加資格の出場制限のためか、現役学生の出場が順次増加の傾向が顕著になってきており、今大会では成年男子2部の参加選手中学生の参加は1/3を占めていた。それに日本リーグ2部の単独チーム、教職員、クラブチームとチームの編成もバラエティに富んでおり、私見ではあるが国民体育大会の主旨に最も相応しい種別と考えられるが、諸般の事情により3年後にはこの種別がなくなると思うと淋しい気持がする。

　結果としては、1位熊本県（ALL熊本）学生のみにてチーム編成、2位大阪府（オール大阪）日本リーグ2部とクラブの混成、3位山形県（東根クラブ）クラブチーム、4位愛知県（豊田自動織機）日本リーグ2部単独チームと上位入賞は例年にない特色をもった編成のチームが受賞した。この種別でも、山形県はあらゆる層の選手を動員し、チームをまとめ健闘し3位に入賞したことは、過去の実績よりみても立派であった。

（成年女子）

　本大会は、22チームの最多参加の種別であり日本リーグ1部6チーム、2部5チームのすべてが参加し、入賞8チームの内7チームを日本リーグ勢が占めてしまったが、リーグ外で1位に入賞した山形県（殖産銀行）は日本リーグ3チームと対戦し、素晴らしい走力とコンビネイションで危げなく勝利を収めてしまった。このことは予期しないことだけにただ驚嘆するのみである。

　成年女子のクラブチームが国民体育大会で1位に入賞したことは、東京都で開催された第14回大会以来34年ぶりの快挙であり、永く歴史に残るものである。

　しかしこのことは、現在日本のハンドボール競技界の頂点にある日本リーグ勢が、アトランタ・オリンピック大会を目指して再出発を期し、一歩踏み出そうとした時であり、奮起を促す好材料でもあり、日本を代表する女子チームの指導者も選手もこの事実を謙虚に

認め、反省と一層の努力を期待するのは筆者のみではないと思う。

ともあれ山形県（殖産銀行）の活躍は、讃えてあまりあるものがありその功績に対し心より敬意を払うものである。

（少年男子・女子）

参加がそれぞれ16チームに絞られたために激戦地のブロックで予選を通過できなかったチームもあったが、概ね8月に行なわれた全日本高等学校選手権大会の上位入賞チームを中心とした選抜チームが顔を揃えたが、中で男子2チーム、女子3チームの単独校の参加があった。

ゲームは、1回戦より伯仲した試合が多く観衆を沸かせ、開催地の人々にハンドボール競技の醍醐味を満悦させた種別であった。

結果については、男子の決勝戦は、下松工高中心の山口県と桃山学院中心の大阪府で全国高校選手権大会準決勝戦の再現となり、大阪府が有利に試合を進めていたが、山口県の最後の粘りが延長戦となり、山口県が選手権大会に引き続き辛勝した。以下3位千葉県（千葉選抜）、4位埼玉県（埼玉選抜）となり、地元山形県（山形選抜）もよく健闘し5位に入賞した。

女子は、1位愛知県（愛知選抜）、2位兵庫県（兵庫選抜）、3位大阪府（大阪高校選抜）、4位千葉県（昭和学院高校）と全国高校選手権大会と男子と同様その順位にあまり変化はみられなかった。地元山形県（べにばな選抜）が準々決勝戦で千葉県と互角に戦いながら、終了直前の不注意なプレーにより敗れ、5位にとどまったことは惜しまれる。



総合優勝を果たした地元・山形県

総合的に見ると、今大会は傑出した都道府県がなく、男女総合優勝も女子総合優勝も最終日まで決定しないほどの激戦であり、特に上位は、点数が接近し僅差で優勝が決った。

開催地山形県が、競技人口も少なく、実績よりしても総合優勝に対する不安もあったが開催地決定よりの永い年月、総力をあげて努力を続け、見事男女総合優勝、女子総合優勝をかち取ったことは成せばなる、努力すれば報われるの言を如実に示したものである。

最後に、大会スローガンのとおり、英知と勇気を結集し、思いっきり躍動し21世紀の主役たちとなった、山形県の関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げると共に、この栄誉を山形の地より永久に消さぬよう、一層の努力と精進を期待するものである。また、国民体育大会の主旨にのっとり永い間ご苦労を重ね、立派に大会を成し遂げた、東根市、尾花沢市の皆様方や大会関係者の皆様に心より感謝とお礼を申し上げて、大会報告とします。

成年男子1部

1回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
京都（京都ク）	32	15－9	17－5	14	北海道（エルムク）
福井（北陸電力）	34	15－17	13－11	29	岩手（花巻ク）
		延長 2－1	延長 4－0		

2回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
広島（広島選抜）	29	14－11	15－7	18	京都
山形（東根ク）	29	15－8	14－7	15	香川（讃岐ク）
埼玉（大崎電気）	28	16－11	12－13	24	沖縄（パームヒルズ）
三重（本田技研）	35	21－1	14－5	6	福井

準決勝

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
広島	28	14－4	14－13	17	山形

〔戦評〕前半立ち上がりから広島はロングシュート、サイドシュート等で得点をあげたのに対し、山形は再三の好機をシュートミス等でチャンスを生かせず、広島が10点をリードして前半を終了。

後半、山形は速攻などで反撃し追い上げたが、攻守に勝る広島が終始リードを保ち決勝に勝ち進んだ。

〔山形〕	得		得	〔広島〕
加納	0	GK	0	宇田川
比嘉	0	GK	0	河野
五反田	1	FP	1	堀田
斉藤	2	FP	1	野中
水戸部	1	FP	1	西山
佐藤	3	FP	1	玉村
荒木	0	FP	8	堀田
赤平	2	FP	2	林
小林	0	FP	3	木村
阿部	0	FP	4	中山
寺尾	1	FP	5	源内
佐藤	7	FP	2	坂口
	17		28	

〔審・多田・杉山〕

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
三重	22	9－8	13－8	16	埼玉

〔戦評〕前半立ち上がりより激しい攻防で互角の展開。埼玉のポストプレーに対し三重のサイド攻撃が決まるが、前半は僅か1点差で折り返す。後半、序盤に速攻などで連続5得点、その後も着実に加点した三重が逃げ切った。

〔埼玉〕	得		得	〔三重〕
佐藤	0	GK	0	高木
渡辺	0	GK	0	橋本
大橋	1	FP	3	弥吉
珍田	2	FP	1	丹羽
土屋	0	FP	3	栗屋
首藤	2	FP	2	立木
小野	1	FP	8	山村
魚住	3	FP	4	内藤
武田	3	FP	0	大塚
山内	2	FP	0	梅基
柏崎	0	FP	1	関根
菅田	2	FP	0	木下
	16		22	

〔審・菅野・半田〕

3位決定戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
山形	20	13－6	7－12	18	埼玉

〔戦評〕前半立ち上がりから山形

の激しいディフェンスに埼玉が攻めあぐねたのに対し、GK比嘉の美技からの速攻、ポストプレーが決まり山形の大量リードで前半を折り返した。

後半に入り埼玉も激しい反撃を見せ、終盤2点差まで追い上げたが、前半のリードを守り切った山形が僅差の勝利を収めた。

	〔埼玉〕	得	〔山形〕	得
GK	佐藤	0	加納	0
GK	渡辺	0	比嘉	0
FP	大橋	0	五反田	0
FP	珍田	1	斉藤	0
FP	土屋	3	水戸部	1
FP	首藤	3	佐藤	3
FP	小野	0	荒木	0
FP	魚住	1	赤平	1
FP	武田	6	小林	0
FP	山内	2	阿部	0
FP	柏崎	0	寺尾	3
FP	菅田	2	佐藤	12
		18		20

〔審・池田・大河原〕

決勝

広島 27（10—10、12—12、2—1、3—2）25 三重

〔戦評〕予想通りの激戦で1点を争う好ゲームとなった。広島に先行されるも三重・内藤の3連続得点などで追いつく。その後三重はポスト、サイドシュートなど多彩な攻めでリードするも広島もサイドシュート、連続の速攻で食い下がり、10—10の同点で前半を折り返した。

後半も一進一退をくり返しながらの攻防となり、見応えのあるゲームとなった。15分過ぎ、ポストシュートなどで広島がリードを保ちながらの展開となったが、広島に退場、ペナルティーが出るなどして三重が逆に2点をリード。しかし、残り40秒に広島が追いつき延長戦に入った。

延長の立ち上がり三重が先制するが、広島に勢いがあり4連続得点するとそのまま逃げ切った。

	〔三重〕	得	〔広島〕	得
GK	高木	0	宇田川	0
GK	橋本	0	河野	0
FP	弥吉	2	堀田	6
FP	丹羽	2	野中	0
FP	粟屋	0	西山	3
FP	立木	4	玉村	4
FP	山村	8	堀田	7
FP	内藤	6	林	2
FP	大塚	0	木村	1
FP	梅基	2	中山	1
FP	関根	1	源内	3
FP	木下	0	坂口	0
		25		25

〔審・佐東・星川〕

成年男子2部

1回戦

広島（広島選抜）32（19—6、13—10）16 埼玉（オール埼玉）

熊本（オール熊本）32（15—10、17—11）21 石川（小松ク）

愛知（豊田織機）29（13—11、16—10）21 岩手（全岩手）

京都（東山ク）28（10—13、18—7）20 北海道（滋賀ク）

山形（東根ク）33（18—8、15—16）24 山梨（山梨選抜）

岡山（全岡山）28（14—12、14—12）24 宮城（仙台育英ク）

沖縄（コザク）27（14—10、13—12）22 香川（香川ク）

大阪（オール大阪）28（12—7、16—12）19 神奈川（全神奈川）

2回戦

熊本 31（13—14、18—16）30 広島

愛知 26（14—13、12—12）25 京都

山形 33（16—10、17—14）24 岡山

大阪 28（13—9、15—14）23 沖縄

準決勝

熊本 31（21—11、10—17）28 愛知

〔戦評〕前半10分まで8—4と熊本が4点をリード。熊本は愛知のミスから速攻で加点、一方愛知はサイドシュート、ポストプレーで応戦、21—11で前半を終了。

後半、10分までは一進一退の攻防が続く。15分過ぎより愛知の速攻、ポストプレーが冴え、残り5分に4点差まで追い上げたが、前半の点差が大きく及ばなかった。

	〔愛知〕	得	〔熊本〕	得
GK	柴田	0	林田	0
GK	兒丸	0	東	0
FP	山田	3	原田	0
FP	吉原	2	鎌田	1
FP	大澤	6	花岡	6
FP	伊藤	0	松谷	4
FP	倉田	4	平田	1
FP	小川	5	岩本	9
FP	桑原	1	松尾	0
FP	杉浦	7	加川	0
FP	渡部	0	鶴田	10
FP	大見	0	永松	0
		28		31

〔審・高橋・安孫子〕

大阪 24（10—11、14—12）23 山形

〔戦評〕前半、立ち上がりから両チームの激しい攻防戦となる。山形は、シュートミスからの逆速攻を決められ、得点を重ねることができず、11—10と1点リードで折り返す。

後半は大阪ペースでゲームが進み、一時は6点差がつく。ラスト10分から山形も追い上げたが僅かに及ばず1点差で大阪が逃げ切った。

	〔山形〕	得	〔大阪〕	得
GK	兼島	0	岩上	0
GK	伊藤	0	福島	0
FP	加藤	3	平山	0
FP	柏崎	5	萩原	12
FP	最上	0	八木	1
FP	西尾	2	竹下	1
FP	長沢	3	野崎	3
FP	高桑	0	鳥平	2
FP	押切	0	奥	4
FP	奥秋	6	森島	0
FP	佐藤	3	向井	0
FP	本庄	1	加地	1
		23		24

〔審・菅野・半田〕

3位決定戦

山形 24（9—6、15—9）15 愛知

〔戦評〕山形は前半立ち上がり、奥秋の速攻のシュートで先取点を

奪う。前半6分まで愛知に得点を許さず一時5点をリードしたが、動きに固さが見られ、本来のペースを取り戻せないまま9－6と3点差で前半を終了した。
　後半に入り、始めのうちは一進一退の点の取り合いとなったが、ラスト10分を切った頃から速攻を中心にシュートを決め24－15と圧勝した。

〔愛知〕		得
GK	柴田	0
	兒丸	0
FP	山田	3
	吉原	1
	大澤	1
	伊藤	4
	倉田	3
	小川	0
	桑原	0
	杉浦	3
	渡部	0
	大見	0
	計	15

〔審・阿部羅 浜野〕

〔山形〕		得
GK	兼島	0
	伊藤	0
FP	加藤	1
	柏崎	2
	最上	1
	西尾	3
	長沢	6
	高桑	1
	押切	2
	奥秋	5
	佐藤	2
	本庄	1
	計	24

決勝

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
熊本	28	15－9	13－12	21	大阪

〔戦評〕前半立ち上がりから動きがよく好調な熊本は、鎌田や花岡らのシュートで得点を奪った。これに対し大阪も得点を重ねるが、PT2本とノーマークシュートを外し、15－9で折り返す。
　後半に入り、点を取り合う両者互角のゲーム展開となったが、前半の大差を取り戻せないままゲームは終了した。

〔大阪〕		得
GK	岩上	0
	福島	0
FP	平山	0
	萩原	6
	八木	1
	竹下	1
	野崎	0
	鳥平	0
	奥	5
	森島	0
	向井	4
	加地	4
	計	21

〔審・多田 細矢〕

〔熊本〕		得
GK	林田	0
	東	0
FP	原口	0
	鎌田	6
	花岡	8
	松谷	0
	平田	2
	岩本	5
	松尾	0
	加川	1
	鶴田	4
	永松	2
	計	28

成年女子

1回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
岩手（三英英会）	24	12－12	12－8	20	山口（徳山ク）
宮城（聖和ク）	21	13－10	8－9	19	香川（香川銀行ク）
鹿児島（ソニー国分）	31	18－1	13－6	7	北海道（札幌倶）
東京（JUKI）	30	14－5	16－8	8	福島（ムネカタ）
岡山（全岡山）	22	9－13	13－7	20	大分（大分選抜）
愛知（ブラザー）	22	11－6	11－6	12	福岡（全福岡）

2回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
熊本（オムロン）	44	23－4	21－3	7	岩手
大阪（大和銀行）	36	20－7	16－12	19	福井（福井選抜）
栃木（日立栃木）	31	20－7	11－8	15	宮城
三重（ジャスコ）	35	20－10	15－8	18	鹿児島
東京	22	11－5	11－9	14	埼玉（大崎電気）
山形（殖産銀行）	39	19－10	20－5	15	岡山

3回戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
山梨（シャト）	25	12－3	13－5	8	京都（京都ク）
石川（北国銀行）	30	14－15	16－13	28	愛知
熊本	26	14－6	12－6	12	大阪
栃木	21	9－7	12－11	18	三重
山形	27	16－8	11－14	22	東京
山梨	21	13－11	8－8	19	石川

準決勝

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
栃木	21	9－10	12－10	20	熊本

〔戦評〕前半立ち上がりより両チームロングシュート等で一進一退の互角の展開。
　後半立ち上がり、熊本は4点を連取し、熊本のペースかと思われたが、中盤、栃木はロングシュートで反撃に転じ、終盤は1点を争う激しいゲーム展開となる。結局後半ペースをつかんだ栃木が1点差で逃げ切り、決勝進出を決めた。

〔熊本〕		得
GK	川島	0
	城下	0
FP	上田	0
	橋本	5
	中山	9
	斉藤	2
	古田	0
	比嘉	2
	田中	2
	石村	0
	吉田	0
	光井	0
	計	20

〔審・多田 杉山〕

〔栃木〕		得
GK	坂本	0
	小川	0
FP	吉鶴	3
	新井	4
	神長	1
	柳田	0
	飯塚	1
	貴田	5
	市来	2
	堤	3
	小柏	2
	伊佐野	0
	計	21

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
山形	22	11－9	11－9	18	山梨

〔戦評〕前半、両チームとも若さあふれるプレーで中盤まで一進一退の互角の試合展開。終盤3点を連取した山形が2点をリードして前半を折り返した。
　後半立ち上がり、山形は7点を連取し優位に試合を進める。山梨も中盤過ぎからロングシュート等で反撃し、激しい攻防となったが、山形が粘る山梨を突き放した。

〔山梨〕		得
GK	村山	0
	工藤	0
FP	小松	0
	生方	0
	山岸	5
	松沢	2
	野沢	0
	芦ケ谷	0
	小野寺	3
	鶴田	1
	小林	2
	小俣	5
	計	18

〔審・林 佐藤〕

〔山形〕		得
GK	鈴木	0
	後藤	0
FP	新田	3
	小高	0
	青木	4
	高橋	5
	小島	3
	野嶋	3
	小池	0
	本橋	4
	小原	0
	三嶋	0
	計	22

3位決定戦

チーム	得点	前半	後半	得点	チーム
熊本	18	10－3	8－13	16	山梨

〔戦評〕前半立ち上がりは両チー

に決めてを欠いていたが、終盤、熊本が中山の速攻等で加点したのに対し山梨はPT、ノーマークシュートを熊本GK川島の好守に阻まれ加点できず、熊本が7点をリードして前半を折り返した。

後半、山梨は速攻、サイドシュートで反撃し、3点差まで追い上げるが、熊本が速攻などで加点、粘る山梨をふり切った。

〔山梨〕	得		得	〔熊本〕
村山	0	GK	0	川島
工藤	0	GK	0	城下
小松	1	FP	0	上田
生方	0	FP	0	橋本
山岸	3	FP	8	中山
松沢	1	FP	2	斉藤
野沢	0	FP	0	古田
芦ヶ谷	1	FP	1	比嘉
小野寺	0	FP	6	田中
鶴田	1	FP	0	石村
小林	0	FP	1	吉田
小俣	10	FP	0	光井
	16		18	

〔審・高橋・安孫子〕

決勝

山形 25（15－8、10－7）15 栃木

〔戦評〕栃木が小柏のサイドシュートで先行するも山形・本橋のミドル、小島のサイドシュートで逆転、すぐにまた栃木が追いつくという白熱したゲーム展開。しかし、10分過ぎから山形が勢いに乗り、一気に7点を連取して優位に立つ。

後半に入り、固さが出たのか得点がお互いに入らない。13分を過ぎて後半2－2というロースコア。残り10分を切る頃から栃木の焦りと山形のプレッシャーからか、両チームにミスが目立ち始める。結局、前半のリードを守った山形が地元に優勝をもたらした。

〔栃木〕	得		得	〔山形〕
坂本	0	GK	0	鈴木
小川	0	GK	0	後藤
吉鶴	0	FP	0	新田
新井	3	FP	2	小高
神長	1	FP	3	青木
柳田	1	FP	7	高橋
飯塚	1	FP	2	小島
貴田	4	FP	2	野嶋
市来	1	FP	0	小池
提	3	FP	5	本橋
小柏	1	FP	0	小原
伊佐野	0	FP	4	三嶋
	15		25	

〔審・岡本・清水〕

少年男子

1回戦

山口（山口選抜）22（9－9、13－10）19 石川（石川選抜）

三重（三重選抜）28（12－9、16－13）22 秋田（秋田選抜）

香川（香川選抜）25（9－8、16－10）18 京都（京都選抜）

埼玉（埼玉選抜）22（12－8、10－4）12 福岡（福岡選抜）

大阪（大阪選抜）20（7－11、10－6、1－1、2－0）18 神奈川（神奈川選抜）

山形（山形選抜）25（11－4、14－8）12 北海道（函館選抜）

愛知（愛知選抜）15（4－10、11－3）13 大分（大分電波）

千葉（千葉選抜）20（12－3、8－8）11 福島（福島選抜）

2回戦

山口 23（11－10、12－5）15 三重

埼玉 25（14－8、11－9）17 香川

準決勝

大阪 23（12－8、11－9）17 山形

千葉 22（11－8、11－10）18 愛知

山口 20（8－8、12－10）18 埼玉

〔戦評〕序盤は、山口・岩本のロング、埼玉・須藤、山口のコンビプレー等で得点、全く互角の展開を見せる。後半に入っても両チーム全く譲らない。残り1分を切っても同点だったが、残り30秒で山口・岩本がロングシュートを決め、熱戦にピリオドを打った。

〔埼玉〕	得		得	〔山口〕
諸橋	0	GK	0	坂田
石丸	0	GK	0	亀山
須藤	6	FP	7	保科
佐藤	1	FP	0	田村
大邑	0	FP	0	九十九
小山	1	FP	3	原田
北川	2	FP	7	岩本
山口	4	FP	1	佐藤
佐々原	0	FP	2	佐伯
川部	0	FP	0	佐伯
宮崎	0	FP	0	神足
柳沢	4	FP	0	島田
	18		20	

〔審・高橋・安孫子〕

大阪 22（6－10、16－8）18 千葉

〔戦評〕前半、パス回しで早い大阪がシュートチャンスをうかがうが、突破口を見つけることができず苦しむ。一方千葉は、ディフェンスを利用した福田の巧みなシュートなどで加点し、千葉が4点をリードして前半を終わる。

後半、開始早々から点の取り合いとなったが、よく足の動いた大阪が立ち上がりに5点を連取して逆転、その後のせり合いを逃げ切って決勝へ進出した。

〔千葉〕	得		得	〔大阪〕
百瀬	0	GK	0	元村
香川	0	GK	0	辻田
福田	11	FP	2	植
西谷	1	FP	2	中野
猪野	0	FP	7	大野
安生	1	FP	3	文平
黒坂	1	FP	4	河村
湯本	0	FP	2	藤谷
阪本	4	FP	0	瀧川
岡崎	0	FP	0	西村
長濱	0	FP	0	尾山
浜田	0	FP	2	小藪
	18		22	

〔審・田村・石川〕

3位決定戦

千葉 23（17－9、6－10）19 埼玉

〔戦評〕5分過ぎまでは互角の展開。しかし、千葉・福田のフェイントからポストへのパスが通り西谷が決めて4－2、その後もカットイン、ミドル、速攻と加点する。埼玉も須藤のミドル、速攻で反撃するが、千葉の大量リードで折り返す。

後半に入り、埼玉も速攻などを確実に決めて反撃、3点差まで追い上げる。しかし、千葉も埼玉・須藤にマンツーをつけるなどして埼玉の反撃をかわした。

	〔埼玉〕	得
GK	諸橋	0
GK	石丸	0
FP	須藤	7
FP	佐藤	1
FP	大邑	0
FP	小山	2
FP	北川	2
FP	山口	3
FP	佐々原	0
FP	川部	0
FP	宮崎	1
FP	柳沢	3
		19

	〔千葉〕	得
GK	百瀬	0
GK	香月	0
FP	福田	4
FP	西谷	6
FP	猪野	2
FP	安生	1
FP	黒坂	2
FP	湯本	0
FP	坂本	7
FP	岡崎	1
FP	長濱	0
FP	浜田	0
		23

〔審・大沢・佐藤〕

決勝

山口 20 (6−8、7−5、4−0、3−3) 16 大阪

〔戦評〕決勝戦の緊張からかパスミス、シュートミスが目立ち、GKの好守もあって7分間得点がなかった。山口がミドル、速攻、大阪もサイド、PTで加点、一進一退のゲームが続いたが、大阪が2点をリードして折り返す。

後半も一進一退の攻防が続いたが、残り6分、大阪の中野、小薮が相ついで退場、山口が追いついて延長に入る。延長に入って、山口が一気に5点を連取、勝負を決めた。

	〔大阪〕	得
GK	元村	0
GK	辻田	0
FP	植	5
FP	中野	2
FP	大野	5
FP	文平	1
FP	河合	3
FP	藤谷	0
FP	瀧川	0
FP	西村	0
FP	尾山	0
FP	小薮	0
		16

	〔山口〕	得
GK	坂田	0
GK	亀山	0
FP	保科	8
FP	田村	0
FP	九十九	0
FP	原田	1
FP	岩本	4
FP	佐藤	0
FP	佐伯	3
FP	佐伯	4
FP	神足	0
FP	島田	0
		20

〔審・岡本・清水〕

少年女子

1回戦

兵庫（兵庫選抜） 17	8−6	9−7	13 埼玉（埼玉選抜）
山口（山口選抜） 17	5−10	12−5	15 宮城（宮城選抜）
山形（べにばな選抜） 20	11−7	9−5	12 三重（三重選抜）
千葉（昭和学院） 18	8−7	10−8	15 宮崎（宮崎選抜）
大阪（大阪選抜） 17	10−8	7−8	16 沖縄（沖縄選抜）
茨城（茨城選抜） 18	12−5	6−4	9 香川（香川選抜）
岩手（全岩手） 21	10−6	11−8	14 石川（石川選抜）
愛知（愛知選抜） 31	16−5	15−4	9 北海道（釧路選抜）

2回戦

兵庫 14	5−7	9−6			13 山口
千葉 20	11−8	9−11			19 山形
大阪 21	10−8	7−9	2−1	2−0	18 茨城

準決勝

愛知 30 (18−5、12−10) 15 岩手

兵庫 13 (6−8、7−4) 12 千葉

〔戦評〕互いによく足が動き、開始から激しい攻防となる。千葉は持ち前のスピードある全員攻撃で相手のディフェンスを崩し得点する。一方兵庫は、千葉の早い戻りに速攻が出せないが、1対1のロングやカットインシュートで加点していく。後半はボールが回りはじめた兵庫が相手のミスにも助けられて逆転し、追いすがる千葉をふり切って決勝進出を決めた。

	〔千葉〕	得
GK	佐藤	0
GK	岩井	0
FP	嶋本	2
FP	阿部	1
FP	増田	2
FP	星	5
FP	小松	0
FP	澤野	0
FP	手塚	0
FP	細井	2
FP	梅沢	0
FP	袴田	0
		12

	〔兵庫〕	得
GK	中井	0
GK	中野	0
FP	松本	0
FP	大井	5
FP	小山	0
FP	中尾	1
FP	小畑	1
FP	小杉	2
FP	川端	2
FP	安達	0
FP	市岡	2
FP	田村	0
		13

〔審・三枝・水越〕

愛知 25 (13−5、12−16) 21 大阪

〔戦評〕開始から大阪・若林が愛知の児島をぴったりとマークし、攻撃に加わる隙を与えない。しかし、愛知は多彩な個人技とパスワークで大阪のディフェンスを崩し確実に得点を重ね、前半13−5と大阪を大きく引き離す。

後半、シュートが決まりだして波に乗る大阪が追い上げるが、前半のリードを守った愛知が勝った。

	〔大阪〕	得
GK	松本	0
GK	富山	0
FP	安部	4
FP	吉川	0
FP	中村	0
FP	若林	1
FP	中山	7
FP	木村	0
FP	田中	3
FP	辻	5
FP	寺前	0
FP	中嶋	1
		21

	〔愛知〕	得
GK	庵下	0
GK	多田	0
FP	梶田	6
FP	山川	6
FP	安田	1
FP	中村	3
FP	内山	0
FP	水野	1
FP	金丸	0
FP	児島	2
FP	山本	6
FP	日下部	0
		25

〔審・星川・佐東〕

3位決定戦

大阪 17 (8−8、9−5) 13 千葉

〔戦評〕互いにミスが多く、動きの固い滑り出しとなった。千葉は大阪の低い位置での固いディフェンスをなかなか崩せず、細井を使うことができないが、星のロングシュートや増田のサイドシュートで優位に試合を展開する。一方大阪は、千葉の嶋本が退場する間に追い上げ、前半は8−8の同点で折り返す。後半は退場やミスの続く千葉を大阪が積極的に攻めて得点を重ね3位入賞を果たした。

	〔千葉〕	得
GK	佐藤	0
GK	岩井	0
FP	嶋本	0
FP	阿部	4
FP	増田	2
FP	星	4
FP	小谷	3
FP	澤野	0
FP	手塚	0
FP	細井	0
FP	梅沢	0
FP	袴田	0
		13

	〔大阪〕	得
GK	松本	0
GK	富山	0
FP	安部	6
FP	吉川	1
FP	中村	0
FP	若林	0
FP	中山	2
FP	木村	0
FP	田中	6
FP	辻	1
FP	寺前	0
FP	中嶋	1
		17

〔審・阿部羅・浜野〕

決勝

愛知 25 (11−8、14−9) 17 兵庫

〔戦評〕両チームともチームカラーを生かした好ゲームとなる。立ち上がり5点を連取した愛知が流れをつかみかけるが、中盤シュートが雑になり、兵庫に追い上げを許す。

後半に入っても一進一退の攻防が続いたが、兵庫の2人の退場が大きく影響し、愛知がせり勝った。

	〔兵庫〕	得
GK	中井	0
GK	中野	0
FP	松本	0
FP	大井	5
FP	小山	0
FP	中尾	3
FP	小畑	3
FP	小杉	1
FP	川端	3
FP	安達	0
FP	市岡	2
FP	田村	0
		17

	〔愛知〕	得
GK	庵下	0
GK	多田	0
FP	梶田	6
FP	山川	3
FP	安田	6
FP	中村	3
FP	内山	0
FP	水野	0
FP	金丸	0
FP	児島	7
FP	出本	0
FP	日下部	0
		25

〔審・石川・田村〕

第5回全国小学生ハンドボール大会

次代を担う、はつらつとしたプレーを見せる

第5回全国小学生ハンドボール大会は、8月1日から3日まで京都府田辺町中央体育館で、男子21道府県、女子16府県、男子24チーム、女子18チーム、選手736名(昨年583名)が参加して開幕した。

昨年はアジア地域スポーツ事業交流の一環として京都田辺小学校選抜男子が韓国へ、本年は京都八幡市小学校選抜男子が8月下旬台北市へ遠征する。また、韓国小学校選抜男女が名古屋へ来日、愛知県小学生ハンドボール教室との交流試合が実現する。今、アジアジュニア対策は、国際化へ向けて重要な役割が各国間の課題として大きくクローズアップしている。近い将来アジアジュニア小・中学生国際交流が促進し、世界制覇に向けての登竜門になることが予測される。さて、第5回大会の記念すべきフシ目にあたって、本年は福島、山梨、長野3県の初参加がみられた。不参加の事情については、経済的支援の問題や社会体育事情との関連もあるが、今後の課題として発展的に検討しなければならない問題である。しかし、回を重ねるごとに本大会が学校関係、社会体育指導者、父母の会等の熱意と理解に支えられる協力体制のご苦労には感謝に堪えないものがある。また、本年度から田辺町実行委員会が発足し、本格的な大会運営となったことは喜ばしいことである。

男子準決勝▼田辺東小(京都)12－5真弓ク(奈良)。

前半から田辺東がリード、長身の川原がロングシュートをよく決めた。後半も二村、藤井の小さい動きと早いパスワークで真弓の速攻を封じた一戦。

▼宮城小(沖縄)11－7田辺小(京都)。

前半の宮城は豊平を中心に仲間、長島の正確なパスワークが得点に結びついた。田辺は単調なパスでシュート力にも決め手を欠いた。

女子準決勝▼宮城小(沖縄)13－4豊野小(熊本)。

宮城の切り札友利の好打は、一人舞台で豊野にツケ入るスキを与えず、寄せつけなかった。練習量にもヒケをとらない自信あふれる鋭い走りは好感の持てるチーム。

▼明野北小(大分)16－6仏生寺(富山)。

明野北は梶原、樋口、御手洗の連けいプレーがよく、ソツのない試合運びで全員がよく走り、まとまった攻撃をみせた。一方、仏生寺は高田一人に頼り過ぎて攻撃が単調、ネバリを期待したが一方的なゲームに終った。

男子決勝▼田辺東小16－15宮城小　第1延長後PTC(2－1)

前半田辺東は川原を軸に田中亮、宮末が小粒ながら宮城のディフェンスの間隙をついて倒れ込み、ポスト攻撃などでよく点を取った。対する宮城も豊平、長島コンビで着実に得点を重ね1点差で折り返した。後半10分後、田辺東が8－8の同点に追いつき一進一退の余断を許さぬ展開となった。田辺東川原が時折長身を生かしたポストプレーで得点、宮城のパスミスを拾ってポイントをあげ、11分には逆転したが攻守ゆずらず延長戦に入った。田辺東はパスカットから得点、宮城は相手のパスミスを得点し試合は決せず、大会規定によりPT戦に持ち込まれ、辛くも田辺東が2－1で宮城を振り切り悲願の初優勝を果たした。

女子決勝▼明野北小12－7宮城小

第1・2・4回に引き続き九州勢同士の好ゲームで観内を湧かせた。前半は宮城の友利がゲームメーカーとして攻守に活躍4点をあげて有利に運んだ。しかし、後半は明野北が反撃、PTも確実に決めて6－5と逆転、エース樋口が鋭いシュートと素晴らしいタイミングのよいシュートを決めて7点をたたき出した。また、御手洗のフリースロー得点もあって、リズムに乗った。守っても宮城のエース友利をマンツーマンで動きを押えたのが勝因、宮城は2本のPTを友利が落としたのが致命的、悔いの残る一戦で惜しまれる。

大会を振り返って、田辺東小は男女とも出場、女子は準決勝リーグで敗退。それだけに男子の初優勝はひとしおだった。試合を前にしたキャプテンの吉田淳は「女子の分も頑張ろう」とチームメイトに声を掛けた。女子チームの選手や保護者が観客席で身を乗り出し、声をからしての声援、同点で延長戦に「相手の動きが鈍くなってきたのでいけると思った」と吉田。同点で延長戦も終り、PT戦では最後の選手がシュート2－1で勝った。駆け寄る選手たち。会場からも盛んな拍手。西城誠一監督は「気持ちのあせりもなく、持ち味が出せた」と初優勝の喜びに感無量といった表情が印象的だった。

(小西博喜)

男子成績

▼予選リーグAブロック

宮城小　9－7　安居小
安居小　7－5　八幡市スポ少
宮城小　17－2　八幡市スポ少
(順位)①宮城小学校(沖縄)②安居小学校(福井)③八幡市スポーツ少年団(京都)

▼同Bブロック

横瀬　8－5　田辺町選抜
塩山スポ少　8－6　田辺町選抜
横瀬　10－8　塩山スポ少
(順位)①横瀬ハンドボールクラブ(大分)②塩山ハンドボールスポーツ少年団(山梨)③田辺町選抜(京都)

▼同Cブロック

延岡小　18－2　和歌山市教室
守谷ク　16－4　和歌山市教室
延岡小　11－3　守谷ク
(順位)①延岡小ハンドボールクラブ(宮崎)②守谷クラブ(茨城)③和歌山市ハンドボール教室(和歌山)

▼同Dブロック

瀬戸　14－4　愛知県教室
田辺小　19－1　瀬戸
田辺小　11－3　愛知県教室
(順位)①田辺小学校(京都)②瀬戸オールスターズジュニア(岡山)③愛知県小学生ハンドボール教室(愛知)

▼同Eブロック

花高ク　10－5　貝塚
本宮スポ少　9－2　貝塚

花高ク　7－4　本宮スポ少
（順位）①花高ジュニアハンドボールクラブ（長崎）②本宮ハンドボールスポーツ少年団（福島）③貝塚バーディーズ（大阪）

▼同Fブロック
田辺東小　13－3　甲田
甲田　13－6　埴生
田辺東小　17－7　埴生
（順位）①田辺東小学校（京都）②甲田ハンドボール部（広島）③埴生ファイターズ（長野）

▼同Gブロック
真弓ク　17－2　笹川スポ少
真弓ク　7－4　中央北小
中央北小　14－3　笹川スポ少
（順位）①真弓クラブ（奈良）②中央北小ハンドクラブ（熊本）③笹川ハンドボール少年団（三重）

▼同Hブロック



窪スポ少　16－0　明石
函館北星　15－0　明石
窪スポ少　10－4　函館北星
（順位）①窪スポーツ少年団（富山）②函館北星スポーツ少年団（北海道）③明石ミニハンドボール部（兵庫）

▼決勝トーナメント1回戦
宮城小 17（10－1、7－3）4 函館北星
横瀬ク 21（8－3、13－1）4 中央北小
延岡小 15（8－1、7－2）3 甲田
田辺小 18（11－0、7－3）4 本宮スポ少
愛知県教室 11（6－4、5－5）9 花高ク
田辺東小 21（10－1、11－4）5 守谷ク
真弓ク 12（5－4、7－2）6 塩山スポ少
窪スポ少 13（9－3、4－4）7 宮居小

▼2回戦
宮城小 14（6－4、8－8）12 横瀬ク
田辺小 14（7－4、7－7）11 延岡小
田辺東小 16（8－4、8－5）9 愛知県教室
真弓ク 8（4－4、4－3）7 窪スポ少

▼準決勝
宮城小 11（8－1、3－6）7 田辺小
田辺東小 12（6－2、6－3）5 真弓ク

▼3位決定戦
田辺小 10（5－3、5－3）6 真弓ク

▼決勝
田辺東小 14（4－5、5－4、2－1、3－4、2PTC1）14 宮城小

女子成績

▼予選リーグaブロック
宮城小　8－5　田辺町選抜
田辺町選抜　9－3　甲田
宮城小　12－2　甲田
（順位）①宮城小学校（沖縄）②田辺町選抜（京都）③甲田ハンドボール部（広島）

▼同bブロック
明野北　11－2　東安居
東安居　12－3　真弓ク
明野北　14－2　真弓ク
（順位）①明野北ハンドボール少年団（大分）②東安居（福井）③真弓クラブ（奈良）

▼同cブロック
豊野小　19－2　愛知県教室
八幡市スポ少　7－6　愛知県教室
豊野小　15－4　八幡市スポ少
（順位）①豊野小ハンドボール部（熊本）②八幡市スポーツ少年団（京都）③愛知県小学生ハンドボール教室（愛知）

▼同dブロック
仏生寺スポ少　20－0　明石
瀬戸　6－5　明石
仏生寺スポ少　16－2　瀬戸
（順位）①仏生寺スポーツ少年団（富山）②瀬戸オールスタージュニア（岡山）③明石ミニハンドボール部（兵庫）

▼同cブロック
延岡小　16－1　笹川
延岡小　5－2　函館北星
函館北星　14－1　笹川
（順位）①延岡小ハンドボールクラブ（宮崎）②函館北星スポーツ少年団（北海道）③笹川ハンドボール少年団（三重）

▼同fブロック
田辺東小　15－3　長崎小島
長崎小島　11－4　オリーブ
田辺東小　25－1　オリーブ
（順位）①田辺東小学校（京都）②長崎小島ハンドボールクラブ（長崎）③オリーブちゃんチーム（香川）

▼準決勝リーグ1組
宮城小 10（5－1、5－3）4 延岡小



延岡小 17（12－4、5－1）5 八幡市
宮城小 25（14－2、11－0）2 八幡市

▼同2組
明野北 8（5－5、3－2）7 田辺東小
田辺東小 31（19－2、12－2）4 瀬戸
明野北 28（15－0、13－0）0 瀬戸

▼同3組
豊野小 9（4－2、5－3）5 田辺町選抜
田辺町選抜 6（1－3、5－2）5 函館北星
豊野小 15（7－1、8－1）2 函館北星

▼同4組
仏生寺 22（9－1、13－2）3 東安居
東安居 12（5－1、7－1）2 長崎小島
仏生寺 22（11－3、11－0）3 長崎小島

▼準決勝
宮城小 13（5－3、8－1）4 豊野小
明野北 16（9－4、7－2）6 仏生寺

▼3位決定戦
仏生寺 14（7－5、7－7）12 豊野小

▼決勝
明野北 11（3－5、8－2）7 宮城小



指導と自己研鑽を目指して

全日本教職員ハンドボール連盟

(はじめに)

全日本教職員ハンドボール連盟は創立以来今年で35周年を迎えた。

連盟の今日の隆盛は、初代会長の山田計氏の功績に負うところが多い。ここに、先生のご尽力に感謝しご冥福をお祈り申し上げます。

連盟は、構成の性格から、20周年から選手権大会に並行して研究発表会を行っている。

(選手権大会)

35年の大会を振り返ると、会場の設定に苦しんだ時代から、現在国体のリハーサル大会と指定されるまで、決して順風ではなかったが、ハンドボールを愛し、生徒に教える立場にある教職員の情熱によって支えられたと言っても過言ではあるまい。

栄光の記録を見ると、男子は、優勝回数のトップは何と言っても大阪イーグルスの5→10回の6連覇、ついで14→23回の10連覇と16回の制覇が光り、ついで、栃木5、埼玉3、東京、京都の各2回、1回は、茨城、兵庫、奈良、沖縄、福岡、香川となっている。

これを見ても分かるように、選手権大会は大阪イーグルスが中心となり展開されていたが、残念ながら32回以降姿を消した。

その後は、圧倒的な強さを持つチームがなく実力が伯仲したチームの熱戦によって展開されている。

女子は16回大会が始められ、当初参加チームが少なく心配されたが、回を追うにつれ安定した参加となっている。

チャンピオンを振り返ると、京都の26→27回、30→35回の6連覇が群を抜いている。ついで大阪6、栃木3、愛知2、岩手1となっている。現在6連覇中の京都がどこまで王座を続けるか、注目される。

現在連盟では、会員の要望によって生涯ハンドボールとしてマスターズの部の実現を計画している。

(研究発表)

研究発表会は、前述のように20回大会から発足したが、発表の数は百を越え、その内容を見ると、当初は、ハンドボールの普及、指導に関する発表が主軸をなしていたが、回が進むにつれて内容がより専門的になり、最近では、義務教育の小学校の授業に取り組む研究と、さらに国際的なプレーに対する分析、レフェリングの問題等、底辺への普及と、頂点への知識という両面の研究に分岐されたように見られる。

発表された内容を類別に上げると、学校教育に関するもの(小学校17・中高校19・その他6)、歴史、ルールに関するもの11、個人技能に関するもの12、チームプレーに関するもの16、国際プレーに関するもの17、わが国のハンドボールに関するもの13、外国遠征の報告4、その他6(スポーツ障害について3)となっている。

発表されたものについては、紀要として年度ごとにまとめて本年15集を数え、参加各チームに配布している。

なお、希望の向きがあれば、事務局に連絡いただき、多くの方のご利用を希望している。

(まとめ)

おわりに、本連盟は、日本ハンドボール界の指導者により結成されたもので、日本のトッププレーヤーも会員の手によって育てられている。会員は日本ハンドボーラーの育成に日々弛まぬ努力に励んでいるわけである。この特殊性をもった連盟にいっそうの後援をお願いして止まない。

(文責　高橋　健夫)





連盟だより

全国大会の持ち回りも平成5年度より2巡目に

全国中体連ハンドボール部

昭和30年に全国中学校体育連盟として設立し、活動を続けてきましたが、平成元年に財団法人化し、名称も日本中学校体育連盟となり、より主体制のある活動をし、体育・スポーツ活動の振興及び競技力の向上をさらに充実する方向性を打ち出し現在にいたっています。

その間に、昭和47年度に、愛知県で学校教育活動外の全国中学生大会が日本協会・愛知県協会の先生方のご尽力で開催でき、昭和54年「文部次官通達」によって全国大会が学校教育活動の大会となり、全国中学校選抜大会と名称の変更がなされました。また、昭和59年度より、全国9ブロック持ち廻り制が導入され本年度1巡し、平成5年度より、新しい持ち廻り順でスタートすることになりました。

日本中体連競技部は、47都道府県中体連を基盤とし、都道府県競技委員会（部長）より9ブロック代表委員が選出される組織となっています（平成3・4年度の代表委員は資料1）。

日本中体連競技部会（9ブロック代表委員、競技担当理事・全国大会開催地代表によって構成）は、全国大会開催時に、開催地（本年度は福井県・福井市）で開催され、次年度の大会要項案の検討や全国大会開催、ブロック大会開催に併う諸問題に対して協感し、全国大会対策委員会に次年度へ向けての提案や要望を提出するシステムになっています。

本年度、福井市では、

1、平成5年度全国大会・大会運営に関して

2、平成5年度全国大会・大会要項の件

3、平成5年度全国大会の抽選方法について

4、全国大会運営の基本及び開催基準の改正に関して

5、新しい全国大会について

を中心に長時間にわたる協議がされ、9月8日の全国大会対策委員会に次のように提案して行くこととなりました。

1、男子、女子各20チームによる効率よい合理的な大会運営を提案する。

なお、出場チームは各ブロック大会要項により選抜された上位よりのチームであることとした。

2、現在の15名の参加人員は変更しないがGKの3名は認めることとした（GK3名の場合は、CP12名となる）。

また、部長、監督のベンチでの服装は教員として常識ある服装になるようにしていくこととした。

3、抽選方法は、客観的かつ単純明解な方法をプロジェクトチームにより早急に作成していくこととした。

4、現行の2コート、2泊3日の開催基準ではなく規模拡大の方向で進みたい。

5、中体連競技部会としては、実現できる方向へ、各団体、協会にはたらきかけていくこととした。

（紙面の関係から骨子とさせていただきました）

平成5年度の大会は、近畿ブロック・奈良県で開催され、2順目のスタートを切るわけです。

現在の中体連としての課題は、加盟チーム数の停滞現象、秋田、青森県に中体連ハンドボール専門部がなく、県協会の多大なご協力を必要とすること、年1回の競技部会のため大会開催・運営に併う諸問題への対処が遅れてしまう点などがあげられると思います。

現在のところ、9ブロック委員長による競技部会のみですが、いずれ47都道府県の専門委員長の会合が持たれ、全国規模の組織運営ができるようになれればと考えています。

（中体連ハンドボール部長・真田元）

（財）日本中学校体育連盟ハンドボール競技部　ブロック代表委員長名簿

ブロック	氏名	上段：勤務先住所　下段：自宅住所	勤務先Tel・自宅Tel
担当理事	加藤正喜	東京都中央区八重州1-2-1　安田信託銀行 東京都江戸川区南葛西西7-1-7-1407	03-3274-9214 03-3877-4128
部長 関東	真田元	横浜市旭区東希望が丘118　市立希望が丘中学校 横浜市戸塚区汲沢町1154, 1-504	045-391-0378 045-865-5313
北海道	清水勝	札幌市豊平区月寒東3条18丁目　市立東月寒中学校 札幌市豊平区里塚2条6丁目22-18	011-853-1520 011-883-6081
東北	根本真	福島市鎌田字御仮屋20　市立北信中学校 福島市飯坂町平野字石堂23-15	0245-53-5049 0245-42-2189
北信越	谷口孝治	福井市松本1-10-1　市立進明中学校 福井市羽坂町6-29	0776-20-5128 0776-37-1337
東海	溝口博一	名古屋市中川区東春田2-72　市立富田中学校 名古屋市港区辰巳町24-19	052-301-6171 052-653-2382
近畿	佐々木英明	奈良県生駒市上町3000　市立上中学校 奈良県大和郡山市千日町13-18	07437-8-4140 07435-3-1503
中国	片山透	岡山市海吉1462　市立富山中学校 岡山市学南町2-8-14	0862-77-2812 0862-53-3479
四国	大崎幸美	高知市朝倉丁604-1　市立朝倉中学校 高知市神田2414-27	0888-44-1824 0888-33-4527
九州	川原康嗣	佐賀市神埼郡三瀬村三瀬2789　村立三瀬中学校 佐賀県神埼郡神埼町鶴242-2	0952-56-2005 0952-53-4615

委員会報告　普及委員会

全国小学校大会、その他について

普及委員長　小西博喜

1、JOCカップ・ジュニアオリンピック大会について

①中学校専門委員会でJOCカップの制定について(JOC通達)具体的な作成資料を検討し承認。

②この実施計画案は、JOC→日本協会→各都道府県協会→全国ブロック協会→ブロック中体連(各都道府県中体連)という組織の基本路線で開催されること。仮りに主管ブロック協会は、主管ブロック中体連に一任しても、タテの関係の位置づけは変えない、日本協会主催であることを確認。

③JOCカップ制定のジュニア大会を、日本協会は本年度事業として開催する。チーム編成は、各都道府県中体連の実情に合わせて1・2年生の最強チーム(単独・選抜・補強等)いずれも自由であることを承認。

④開催地候補については、現在日韓中学生交流計画を推進する大阪ハンドボール協会に意向を打診した結果、開催場所・堺市、期日・平成5年3月27・28日両日の計画案について承諾があり、承認。

2、全国小学生ハンドボール大会について

①ボールの大きさ、重さ、固さ、規格等について(松ヤニの問題も含めて)

この問題は、毎年全国小学生大会時、監督、指導者の方から質問されている懸案事項であり、今回本委員会と指導委員会の協議事項とすることを申し合わせた。なお、本年度内に業者との協議をまとめることで承認。

(参考)	(外周)	(重さ)
台　湾	51・5cm	330g
韓　国	50cm	280g (軽量1号球)
デンマーク(ミニ)	46cm	260g (縫い皮0号球)
日　本	54・2cm	265g (軽量2号球)

(各委員会の感想)

●4ヶ国の小学生用ボールを各々比較すると、日本のボールが他国に比べて大きいのが難点。

●外国では貼りボールの使用を禁止している。

●松ヤニの使用はあまりない。

●ボールを片手で扱えることにより技術は大幅に進歩する。(ラテラルパス、フックパス、ジャンプ力アップ、高い打点からシュートが可能等)

●松ヤニを使用することにより衣服、手の汚れを小学生に管理させることは困難である。

(まとめ)

普及委員会としては、小学生4~6年生の体格差による技術向上を考えて、ボールの大きさ、重さ、安全性、ボールの操作、親しみやすさ、材質等について実際に各国のボールを手にとって比較検討した。現在使用している日本の軽量2号球を1号球に変更し、縫い皮ボールで天然皮革がよい。また、低学年には0号球の使用が望ましい。ボールが顔面に当った時のショック、痛さが少ない等の安全性を考えると、縫い皮ボールが望ましいという結論に至った(固い、痛い、大げさすぎる、重いは低学年の子どもたちが興味を失ってしまう、ハンドボール離れにつながる)。また、小学生用ボールであるから、カラフルな色を使うとさらに興味を持たせることにもなる。概して韓国ボールが適当な感じがするというのが全体の意見。

●小学生の松ヤニ使用について

松ヤニはボールが軽量2号球から1号球に変われば、ボール操作は今までよりもさらに容易になり、松ヤニの使用は不要になる。また、アジア、ヨーロッパ事情を含めて松ヤニを使用しない方向で決定した(ユニフォームの汚れ、アンケート調査でも不要の意見が多い)。

3、全国小学校大会におけるママさんハンドボール・アンケート調査について

まだ発展途上の段階であり、小学生の参加状況を観察しながら発展的に対応していくことで了解。ママさん用ルールの開発も必要。また、ハンドボールの広報・宣伝活動をもっと活発にせよという意見が大変強い。

4、小学生、中学生ハンドボール技術指導カリキュラム作成について

●韓国では小・中学校それぞれのカリキュラムができており、徹底した一貫教育の技術指導を行っている。

●中学校専門委員会で指導カリキュラム案を作成することを依頼した。(真田委員長)

●小学生については、まず資料収集から始めることを申し合せた。

5、スポーツ少年団の育成について

日本リーグ、実業団チームが、会社企業近辺地域の小・中学生を対象に教室等を開きながらスポーツ少年団育成を試行できないものか。チーム名、ユニフォームには企業名を使用して育成を図るのも一つ。小学生大会もスポーツ少年団スタイルに移項することが望ましい。現状ではバレー、サッカー他に随分普及の遅れをとっている。

6、日韓小学生、中学校ハンドボール交流計画について

各都道府県及びブロック等で国際交流試合を行う場合、必ず日本協会に届け出ることを確認。

7、その他

全国タイトルのつく大会には、主管運営側は、テレビ放映のPR対策に積極的な努力をして茶の間スポーツの知名度アップを図り企業スポーツへの挑戦をテレビ事業の目玉商品にしていくことを確認。

委員会報告　企画委員会

全日本チームのバックアップを

企画委員長　木野　実

本年5月より企画担当を任命され、それに伴い各種委員会が設置されました。企画委員会もまずいろんな分野の方々からメンバーを構成するべく、先輩、同僚から数々のアドバイスを受け10名のメンバーを選出しました。

皆様快くハンドボール界発展の為承諾下さり、中にはメンバーに入らなくても時と場合によって協力しますよという有難い言葉もいただき6月に発足し、早速各委員に将来のハンドボール発展の為のレポートを提出していただきました。

現在直接現場に携っている人をはじめ全く客観的にみている人から多くの暫新なアイデアが寄せられ、各委員の熱い熱い情熱が伝わってきて大変うれしく思いかつ心強く思いました。

我々の仕事は就任の時にも書きましたが、全日本チームの強化のバックアップ、そして普及の二つが大きな仕事となりますが、まずオリンピック出場復活の為知恵をだしあい、そして全日本選手達にチームが私たちのチームとして、思い切ってプレー出来る舞台づくりの環境を如何にととのえていくかにかかっています。

全日本チームの活躍は海外での遠征並びに国内での合宿等は情報として一部の人が知っているのみで、国内で日本チームを披露する場が少なかった反省に立って、まずチームと全日本プレーヤーを多くのハンドボールファンは勿論一般の人に広く知らしめることが第一と考え、早速広報委員会、全日本チームの協力を得て恩田広報担当常務理事と共同で男女全日本チームのパンフレットを作成し、9月の各地で開催された学生リーグをはじめ国体、インカレ、全日本総合、日本リーグの各会場で配布、全日本プレーヤーの紹介を兼ねて広くPRしていくことにしています。第1回の極東大会にも持参していただき（国際用に英語でも記載）、蒲生全日本チームとして国際大会で初めての優勝を飾ってくれたことは大変喜ばしいことでした。

現在はほぼ毎月1回のペースで来年度ジャパンカップ（仮称）開催に向けて準備、企画中がありますが、この半年アジア連盟の役員改選、そしてIHFの役員改選と世界選手権大会の出場枠、大会出場基準の変更が急に決定され、来年から大巾に国際スケジュールが加密化になり、早急に日程調整をよぎなくされています。

極東地区でも、アジア大会、アジア選手権、極東大会、東アジア大会等などめじろ押し、その上ソ連の崩壊に伴いソ連の極東地区の加盟参加等混とんとしているのが現状ですが、竹野国際担当の指導と情報力を得て、早目の対応を心がけています。

ジャパンカップ開催は財源の確保が急務ですが、山下財務理事のアドバイスを受けながら連携してすすめています。今のところ9月上旬～中旬の開催をめざしています。

今後、企画委員会では、次の点を検討事項としています。

一、全日本チームの合宿を選手出身地で行なう立案。

二、全日本フレーヤーのPR方法の企画、立案。

三、ブロック別にハンドボールシンポジウム開催し将来の発展につなげていく。また、日本協会と地方協会をより密着させ協力体制をつくる。

四、ハンドボールのプロ化実現の検討。

五、観客動員のマニュアルづくり。

六、賞金制度の導入検討。

主に各企画委員からの提案事項ですが、まだまだ身近な問題も十分対応出来ているとはいえませんので、これらをより具体化、具現化する意味においても、分科会をつくり、より優秀で熱意のあるメンバーを有機的に活動して戴けるものと期待しています。また、女性の発想、考えを積極的に取り入れ企画、立案をめざしています。只今協力して戴けるメンバーをいろいろな人から推薦を待っていますのでご連絡いただければ幸いです。

（木野　実）

各地の大会結果

東北

第44回岩手県民体育大会

（7月10～12日／岩手大グランド）

〈少年男子〉

▼1回戦

大迫 25－15 釜石工
一関工 21－9 久慈
釜石南 22－14 花巻農
花巻北 22－11 福岡工
盛岡商 36－7 一戸
葛巻 20－14 西和賀
山田 20－12 盛岡南
盛岡大附 25－19 水沢
福岡 20－10 宮古
盛岡三 28－11 一関高専
花巻南 20－19 久慈山形

▼2回戦

盛岡一 27－7 大迫
一関工 16－15 釜石南
花巻北 16－13 一関一
盛岡商 22－14 岩手
不来方 43－10 葛巻
山田 19－17 盛岡大附
盛岡三 23－13 福岡
盛岡四 36－14 花巻南

▼準々決勝

盛岡一 31－14 一関工
盛岡商 24－10 花巻北
不来方 38－10 山田
盛岡四 28－18 盛岡三

▼準決勝

盛岡一 17－10 盛岡商
不来方 20－17 盛岡四

▼決勝

盛岡一 17（7－7、10－6）13 不来方

〈少年女子〉

▼1回戦

久慈 20－7 水沢
花巻南 25－8 盛岡三
岩手女子 14－6 久慈山形

▼2回戦

盛岡二 35－6 久慈
向中野 16－5 平舘
盛岡白百合 8－6 盛岡南
黒沢尻南 28－1 花巻農
釜石南 13－9 花巻南
花巻北 24－5 釜石商
宮古 28－22 一戸
不来方 32－3 岩手女子

▼準々決勝

盛岡二 43－3 向中野
盛岡白百合 10－8 黒沢尻南
花巻北 10－8 釜石南
不来方 14－8 宮古

▼準決勝

盛岡二 26－4 盛岡白百合
不来方 28－10 花巻北

▼決勝

盛岡二 20（14－3、6－7）10 不来方

〈成年男子〉

▼1回戦

岩手自衛隊 25－20 あいせんク

▼2回戦

花巻ク 52－11 岩手自衛隊
岩手フェザント 32－34 岩手医科大
岩手教員ク 33－15 銀葉ク
岩手大 30－22 早池峰ク
志高ク 36－18 花巻送球会
盛岡商友会 27－21 岩手大ク
山王ク 28－26 関一ク
白亜ク 46－10 日立水沢

▼準々決勝

花巻ク 42－11 岩手フェザント
岩手教員ク 36－16 岩手大
盛岡商友会 19－19 志高ク（1PTC0）
白亜ク 38－16 山王ク

▼準決勝

花巻ク 30－28 岩手教員ク
白亜ク 29－14 盛岡商友会

▼決勝

花巻ク 24（12－10、12－8）18 白亜ク

〈成年女子〉

▼1回戦

桐花ク 21－16 花巻ク

▼準決勝

白梅三英英会 20－18 桐花ク
ギャロップク 22－15 岩手大

▼決勝

白梅三英英会 28（13－5、15－5）10 ギャロップク

東海

第43回5大都市体育大会

（7月10～12日／名古屋・露橋スポーツセンター）

〈男子〉

▼1回戦

京都 29－16 横浜
大阪 22－15 神戸

▼敗者復活戦

横浜 22－17 神戸

▼準決勝

京都 24－18 大阪
名古屋 14－12 横浜

▼決勝

京都 19（12－6、7－16）16 名古屋

〈女子〉

▼1回戦

横浜 18－13 大阪
京都 24－12 神戸

▼敗者復活戦

神戸 14－11 大阪

▼準決勝

京都 18－11 横浜
名古屋 14－11 神戸

▼決勝

京都 18（8－3、10－7）10 名古屋

第28回東海実業団選手権

（7月19、26日／本田技研鈴鹿健保体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

豊田自動織機（愛知）31－8 三洋電機（岐阜）
日本耐酸壜（岐阜）25－13 アイシン精機（愛知）
本田技研鈴鹿（三重）31－18 ブラザー工業（愛知）
豊田合成（愛知）24－13 バウハウス丸栄（岐阜）
新日鉄名古屋（愛知）24－16 日本ガイシ（愛知）

▼2回戦

豊田自動織機 29－19 日本耐酸壜
本田技研鈴鹿 32－15 豊田合成
大同特殊鋼星崎（愛知）29－12 新日鉄名古屋

▼準決勝

トヨタ車体（愛知）37－32 豊田自動織機
大同特殊鋼星崎 22－20 本田技研鈴鹿

▼3位決定戦

本田技研鈴鹿 25－20 豊田自動織機

▼決勝

トヨタ車体 30（14－9、16－9）18 大同特殊鋼星崎

〈女子〉

▼リーグ戦

ジャスコ（三重）42－8 三洋電機（岐阜）

プラザー工業 12―0 三洋電機（愛知）
ジャスコ 26―25 プラザー工業
〔順位〕①ジャスコ②プラザー工業③三洋電機

近畿

第35回近畿高校選手権
（7月23日〜26日／不明）

〈男子〉
▼1回戦
上宮 17―10 神戸弘陵
北嵯峨 15―10 河瀬
北陽 17―13 明石清水
育英 19―9 貴志川
彦根工業 18―8 畝傍
洛北 14―12 初芝
都島工業 18―15 洛水
明石 21―17 野洲
▼2回戦
上宮 24―12 正強
北嵯峨 20―14 粉河
北陽 20―20 桂（7PTC6）
育英 15―12 長浜北
彦根工業 12―9 那賀
洛北 24―9 西宮東
生駒 20―15 都島工業
桃山学院 23―15 明石
▼3回戦
上宮 17―8 北嵯峨
北陽 18―11 育英
洛北 17―10 彦根工業
桃山学院 22―14 生駒
▼準決勝
上宮 16―15 北陽
桃山学院 20―15 洛北
▼決勝
桃山学院 21（10―8、11―6）14 上宮

〈女子〉
▼1回戦
守山女子 14―3 白藤
鈴蘭台 23―19 初芝橋本
福島女子 19―2 富雄
八日市 7―5 城南
宣真 18―2 河瀬
大谷 12―9 園田学園
初芝 16―11 神戸女子商
甲子園学院 13―12 東宇治
▼2回戦
四天王寺 24―10 守山女子
洛北 21―7 鈴蘭台
福島女子 16―6 貴志川
夙川学院 17―5 八日市
宣真 12―7 那賀
向陽 13―12 大谷
彦根商業 17―13 初芝
添上 12―9 甲子園学院
▼3回戦
四天王寺 16―5 洛北
夙川学院 16―6 福島女子
宣真 22―17 向陽
添上 14―12 彦根商業
▼準決勝
四天王寺 11―5 夙川学院
添上 16―8 宣真
▼決勝
四天王寺 15（6―5、9―6）11 添上

九州

第4回宮崎県小学生新人大会
（6月14日／西都商高体育館）

〈男子〉
▼Aパート
延岡小A 16―6 妻北小A
延岡小A 23―2 日知屋東小B
小林小B 2―1 妻北小A
小林小B 12―3 日知屋東小B
▼Bパート
小林小A 12―5 延岡小B
小林小A 7―6 妻北小B
妻北小B 8―3 日知屋東小A
日知屋東小A 14―4 延岡小B
▼決勝
延岡小A 14（4―2、10―0）2 小林小A

〈女子〉
▼リーグ戦
延岡小A 16―0 日知屋東B
小林小 8―8 日知屋東A
延岡小B 6―3 日知屋東B
延岡小A 8―2 小林小
日知屋東小A 10―2 延岡小B
〔順位〕①延岡小②日知屋東A③小林小
▼決勝
延岡小A 12（7―0、5―1）1 日知屋東A

宮崎県中学校夏季大会
（7月12、13日／高鍋町総合体育館）

〈男子〉
▼1回戦
北川 30―6 岡富
高鍋西 19―9 油津
山田 18―7 志和池
小林 25―6 祝吉
▼決勝リーグ
北川 19―6 高鍋西
北川 19―5 山田
北川 17―7 小林
小林 19―14 山田
小林 16―9 高鍋西
山田 23―13 高鍋西
〔順位〕①北川②小林③山田④高鍋西

〈女子〉
▼予選リーグA
北川 12―10 山田
北川 20―7 岡富
山田 13―6 岡富
▼予選リーグB
小林 30―3 宮崎西
小林 20―4 南郷
南郷 30―4 宮崎西
▼決勝リーグ
北川 12―10 山田
北川 19―6 南郷
北川 17―12 小林
山田 10―6 南郷
小林 15―8 山田
小林 20―4 南郷
〔順位〕①北川②小林③山田④南郷

今まで協会で発行した指導書

ハンドボール協会として指導の指針を示すべき指導書は、おそらく次の２冊であろう。一つは昭和47年８月１日発行の「日本ハンドボール協会編　ハンドボールテキスト」(Ａ４判）である。もう一つは昭和60年発行の「小学生のためのハンドボール入門」(Ａ５版）である。両方とも日本協会普及部の手によって作成され、安価な値段で発売されていた。

ハンドボールテキストは数回改訂されたが、現在は絶版となり在庫もない状態である。このハンドボールテキストは誰でもがハンドボールの指導が出来るようにとの願いから作られたもので、学校体育から競技スポーツとしてのハンドボールまで指導できるように、簡潔に要領よくまとめられたものである。

「小学生のためのハンドボール入門」は小学生でもハンドボールが理解でき、親しみが持てるように、漫画のイラストをふんだんに使って技術とその練習法、チームプレイやルールを解説している。楽しい冊子である。指導者もこの本を読めば小学生の指導法が一通り理解できるはずである。在庫がまだあるのでほしい人はハンドボール協会に問い合わせて下さい。

今回の指導書は「ハンドボールテキスト」の延長線上にあるが、内容を整備し、必要な項目を網羅したものである。

真の協会の指導書としていくために

この指導書に取り組んでみて、指導体系、技術体系の一貫化と一言に言ってもそれをなし得ることが如何に難しいことか分かった。しかし当時苦しんで作ったハンドボールテキストより数段内容も充実し、よりハンドボール協会の指導書としての内容を備えたことは確かなことである。より多くのハンドボール関係者に読んで頂き、ご批評頂くことによって、よりよいものへと改訂して行くことが今後は必要であると思います。何はともあれご一読願いたい。この収入は協会の財源になることも付け加えておきます。

ハンドボール指導教本完成す

右記の標題のハンドボール指導法教本が出来上がりましたのでお知らせ申し上げます。

いきさつ

今から2年前、大修館書店よりハンドボール協会に、公認指導者であるコーチ、スポーツ指導員養成のように指導用の教科書を作成したいという要望があった。当時の安藤専務理事よりその作成担当として指導・方法委員会が指名された。同様のものは陸上競技やバレーボール等で既に作成されていた。当時から指導体系の一貫化が叫ばれていたが、この機会にこれを実現しようと取り組みに至った。執筆者は当時の指導委員会のメンバーを中心として、各方面より執筆に加わって頂いている。

目的と対象

公認コーチ養成講習会あるいは地域単位で開催されるスポーツ指導員（ハンドボール）養成講習会の専門教科の教科書として供することが本来の目的であるが、それにこだわる事なく、広く一般の指導者にも読んで頂きたい。また、現在プレイをしている選手にもぜひ読んで技術の上達の、またチーム運営の手引としてご利用頂きたく思っております。

都道府県単位で開催される講習会等でもぜひご利用頂き、ご批判を加えていただけると幸いかと思います。

内容

ハンドボールの指導に必要な内容を押さえた。内容に話題を添えるために、トピックスの形で、ハンドボールの科学に関する事などを挿入している。内容のあらましは次の通りである。

写真をふんだんに使用して解説しているため、理解しやすい本に出来上がっている。

第1章　ハンドボール競技の概要
　1　ハンドボールの歩みと現況
　2　ハンドボールの特性
　3　技術戦術的発展
第2章　指導者のあり方
　1　指導者の心得
　2　指導の4大弊害
　3　指導の実際
第3章　発育・発達と指導
　1　ハンドボールの楽しさと指導
　2　発育、発達と指導
　3　こどものスポーツと指導
　4　初心者の指導
　5　指導実践例　全国大会優勝校監督
　6　世界の指導者の教え
第4章　技術・戦術と指導法
　1　ハンドボールの技術戦術の構造
　2　技術戦術の指導
第5章　ハンドボールの体力トレーニング
　1　体力トレーニングの理論
　2　体力トレーニングの実際
　3　動きづまり
第6章　健康管理
　1　チームとしての健康管理のシステム作り
　2　健康管理の内容
　3　合宿・試合時のチェックポイント
第7章　チームの管理と運営
　1　チームの管理と運営
　2　練習の進め方
　3　ゲーム
　4　ゲームの分析と評価
第8章　ハンドボールのルールと審判法
　1　ルールの精神・構造・特質・内容
　2　ルールからみた試合運営
第9章　付録
　1　公認スポーツ指導者制度について
　2　ハンドボールの用語
　3　世界と日本のハンドボールの組織
　4　世界と日本の競技組織

※コラム　女子指導について：ハンドボールのバイオメカニクス：技術を観る眼：ハンドボール競技の生理学：ソ連(旧)・韓国のトレーニング構想：ハンドボールとスポーツ医学：ゲーム速報・分析をパソコンで

事務局だより

日本ハンドボール協会事務局長
斎藤　博

機関誌の新しい編纂の一流れとして、今般日本協会事務局のご紹介をさせて載くこととなりました。

振り顧みますと、昭和56年、日本協会が財団法人化されたに伴い、その事業の発展と円滑なる運営の一助として事務局体制が確立されてからはや11ヶ年が経過したことになります。

爾来、ここ東京・渋谷区神南の岸記念体育館3階の305号室にて、協会執行部の各位、また、各都道府県協会・連盟、日本体育協会・日本オリンピック委員会、そしてハンドボールを愛する皆々様の間に位置して、文字通り事務拠点としての職責全うに務めてまいりました。

一口に事務と申しても、一つの事業体である以上非常に多岐に亙り、大まかに分類しても職務・財務・普及・指導・強化・審判・国際・企画・広報等に係わる事業の推進の為の関連部署との文章・電話などに依る連絡や申請・報告等の取りまとめ、そして検定各企業を始めとする外部団体との接触等枚挙にいとまがないほどです。

事業の発展・拡大につれ、事務量も増大をつづけ、事業内容も相互に絡みあって複雑化して来ております。

我々事務局員総員5人は、日々これが職務の遂行に真に多忙裡に過しておりますが、執行部の各理事の適切なるご指示により処理を進めると共に、何よりも会員が日本協会発展の一翼を担わせて戴いている喜びと責任を感じて仕事に勤んでおります。

皆様からご覧になれば、未だ至らぬ点が多々あると存じますが、心温いご指導、ご鞭撻の上に早く地盤固めを進めて参りたい所存でございます。

さてここで、簡単ながら5人のプロフィールを紹介させて戴きます。

日本リーグ運営に関する業務は清水雅子(マサコ)さん、菅野恵理(スガノエリ)さんは選手の競技力向上事業並びに国際競技会への代表選手団の派遣に関する部門を受け持ち、両名共仕事に精通したベテラン職員であります。

次の二人は本年度から陣営に加わった有力なる人材です。まず本多正樹(マサキ)さんは、主に総務・経理面を担当し再に事務合理策に取り組んでまいります。そして高畑和江(カズエ)さんは金銭出納を始め会計処理・物品販売事務に就事しています。

さて、私斎藤は本年4月局長に就任致しました。本多さんにそれまで担当した業務を委ね、先任局長の業績を踏え微力ながら事務局在職7年の経験を基に、統括業務に鋭意取り組んでいく所存であります。

記述した主たる担当業務は、前述の数多い事務内容の一パートであり、それ以外の業務も各個相互連携の上処理にあたり、取り残しの無いよう努めております。

何より私たち5人全員は心からハンドボールを愛し、ハンドボール競技の為にはすべてを投げうっても務める燃える集団であります。再に、いつまでもその火を燃し続けて行きたいと固く心に念じております。

何卒皆々様も事務局近隣にお出向きの折は、是非お気軽にお立寄りくださり、ご叱咤、ご激励さるよう心待ちに致しております。

協会だより

10月度常務理事会　10月17日　於　日本協会
出席　中沢専務理事、松本監事

1．第47回国民体育大会報告
2．アジア地区諸大会について
　極東ハンドボール大会を東アジアスポーツ大会に合併させる方向で各国と調整していく。
3．第44回全日本総合選手権大会について
　自衛隊連盟が活動休止中のためその枠は日本協会推薦チームで充当することとし今年度はインカレ第4位チームを推薦することに決定。
4．ＪＯＣカップジュニアオリンピック大会
　補助金は高校選抜大会と同等とし今年度は予備費より支出することで次回の全国理事会で承認を願うこととした
5．各委員会報告
　（ア）国際委員会　10月27日クウェートで開催されるＡＦ理事会に渡辺副会長欠席のため中沢、竹野が代理出席する事で調整中。
　（イ）技術委員会　ハンドボール指導教本10月末完成
　（ウ）強化委員会　遠征計画報告、承認
　　女子世界選手権Ｂ　リトアニア他
　　11.18　出発　12.8 帰着
　　団長　渡辺副会長　他21名
　　男子欧州遠征　オランダ
　　11.20　出発　12.1 帰着
　　団長　須藤理事　他21名
　　以後の人名変更は強化委員長に一任
6．その他
　読売スポーツ賞候補は専務理事、強化担当、広報担当で検討、次回常務理事会に提案する

12月度予定
　全日本総合選手権大会 於 東京体育館 12月10日～13日
　常務理事会　於　日本協会　12月５日

asics ATHLETIC SHOES®



ゴールに狙いをつけた傾斜角。

踏み付け部のエッジにつけた傾斜が、倒れ込みシュートを打ちやすくしました

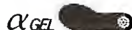
コートは狭く、ゴールポストも小さいハンドボール。厚い防御の壁を突き破ってシュートを決めるのは、簡単なことではありません。わずかな間隙をぬって決める倒れ込みシュートこそ、まさにハンドボールの醍醐味です。スカイハンド®ジャパンα-Sは、アウターソール踏みつけ部のエッジに傾斜をつけることにより、倒れ込みシュートを打ちやすくしました。

インドアのために生まれたスパイラルソールが、すばやい攻撃を支えます。

ハンドボールに要求されるものは、なによりもまずスピード。インドア専用に開発されたラバー製のスパイラルソールがすばやい動きにあわせて威力を発揮します。動きやすく、滑りにくい。しかも、踏み付け部には溝を配し、屈曲性をアップ。攻撃に、防御に、鍛えぬかれたフットワークに磨きがかかります。



品名 **スカイハンド®ジャパンα-S**
品番 **THH711** メーカー希望小売価格 **¥16,000**(消費税抜き)



カラー/●ホワイト×Ⓦレッド・マリンブルー ●ホワイト×Ⓦマリンブルー・レッド
サイズ/22.5〜29.0㎝

株式会社アシックス

〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)3624-1814(専用)・(03)3624-2221(大代表)

かんばれ!ニッポン!



JGS25-18

アシックスは
オリンピックキャンペーンの
オフィシャルスポンサーです。

スポーツあげたい、
スポーツほしい。
全国共通スポーツ券

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三二六号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成四年十一月二十六日 印刷
平成四年十二月一日 発行
東京都渋谷区神南一-一-一 編集兼発行人 中澤重夫
電話 代表 三四八一-二三六一
振替 東京 六-五八二四八番
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)